學　報
Kobe College Bulletin

ISSN0389－164X
NO. 1 6 8
2013. 7 . 3
神戸女学院
学報委員会

キャンパス移転80周年に寄せて

理事長・院長・中高部長　森　　孝一

前回の『学報』でも紹介いたしましたが、今年は岡田山へのキャンパス移転80周年の年にあたります。移転80周年の記念事業の中心は以下の三つです。

一つ目は前回の『学報』でも紹介しました記念冊子『神戸女学院岡田山学舎の建築 歴史調査報告書』の刊行です。二つ目は「貴重書庫」（仮称）の設置です。神戸女学院図書館には「宣教師文書」をはじめとして、貴重な歴史資料が所蔵されていますが、適切な保存環境が整備されていなかったために、貴重な資料の劣化が進んでいました。今回、アメリカの神戸女学院のサポート組織である Kobe College Corporation（KCC-JEE）とめぐみ会からのご寄付によって、図書館本館に、神戸女学院の「アーカイヴ」にあたる「貴重書庫」を設置いたします。三つ目は10月12日の創立記念日に開催されるシンポジウム「ヴォーリズ建築の魅力とメッセージ」（仮題）です。講師は東京大学教授で新しい歌舞伎座の設計者でもある隈 研吾さんです。パネリストはヴォーリズ建築の研究者である大阪芸術大学教授の山形政昭さんと、卒業生で歌人の江戸 雪さんです。どうぞ、ご期待ください。

『神戸女学院岡田山学舎の建築 歴史調査報告書』に、私も拙論「アメリカにおけるキャンパス・デザインと高等教育の理念―岡田山キャンパスへの影響」を寄稿いたしました。この『学報』はウェブ版が一般に公開されますので、神戸女学院関係者以外の方にも知っていただくために、とくにリベラルアーツ教育と岡田山キャンパスとの関係についての部分を要約して紹介させていただきます。

神戸女学院は第３代院長ブラウン（在任1883年～1889年）、第４代院長ソール（在任1889年～1915年）の時代以降、アメリカにおける、キリスト教に基盤を置いた女子の「リベラルアーツ・カレッジ」を日本において実現することを目標にして教育が行われてきました。1933年に神戸女学院が神戸から現在の岡田山に移転したときも、この教育理念を強く意識してキャンパス・デザインが考えられたと思われます。

アメリカのキャンパス・デザインが岡田山キャンパスにどんな影響を与えたのかを考えるために、岡田山キャンパスの重要な特徴である「中庭」とそれを取り囲む校舎群の配置について考えてみましょう。

原型はイギリスの大学に見られる中庭（Quadrangle クォドラングル）です。アメリカの大学はイギリスの大学の「クォドラングル」を取り入れながら、アメリカ独自なものに変えていきまし

た。イギリスの大学のクォドラングルが、「ロ」の字型の一つの建築物によって囲まれた、閉じられた中庭であったのに対して、アメリカの大学のクォドラングルは、三方は校舎によって囲まれていますが、一方は街に対してオープンな、「開かれたクォドラングル」が一般的です。大学を閉じられた世界としたイギリスに対して、コミュニティに対して開かれた大学とすべきであると考えたのでしょう。

そのように考えると、神戸女学院の中庭は「閉じられたクォドラングル」であり、アメリカの典型からいえば外れています。むしろ、関西学院のクォドラングルがアメリカの典型に近いと言えます。それではなぜ、神戸女学院の中庭は「閉じられたクォドラングル」となったのでしょうか。

いくつか理由が考えられますが、一つは岡田山キャンパスの立地条件です。上ヶ原台地の突端に位置し、キャンパスと連続した開かれるべき街が存在しなかったことが第一の理由として考えられます。二つ目の理由は、女子大学としての特性として、外の世界に対して開かれているよりも、むしろ女子学生を守り包み込むために、「閉じられたクォドラングル」が選ばれたのではないでしょうか。三つ目の理由はもっとも重要です。それは神戸女学院としての教育理念に結びついた理由であるからです。

アメリカのキャンパス・デザインの典型となったトマス・ジェファーソン設計のヴァージニア大学の特徴は、キャンパスの中心、すなわち「コ」の字型の建物配置の中心に、Rotunda と呼ばれた図書館を配置したところにありました。それまでのアメリカの大学の中心はチャペルでしたが、ジェファーソンはヴァージニア大学のなかにチャペルを作りませんでした。チャペルではなく図書館を大学の中心にしようと考えたのです。

ジェファーソンはアメリカ建国の理念を独立宣言と合衆国憲法に書き記した人物でしたが、その理念とは基本的人権を中心とする啓蒙主義の理念でした。すなわち、教会や宗教に依存するのではなく、人間の能力、とくに知性への信頼を基本とする思想であったと言えるでしょう。チャペルを廃し、図書館を大学の中心（焦点）に配置したヴァージニア大学のキャンパス・デザインは、彼の思想を具現化したものであったと思われます。

それではここで、ヴァージニア大学のキャンパス・デザインと比較して、岡田山キャンパスの「閉じられたクォドラングル」に込められたヴォーリズの思想について考えてみたいと思います。

総務館（礼拝堂としての講堂とソールチャペルを含む）、図書館、文学館、理学館が中庭を中心に「閉じられたクォドラングル」を形成しています。図書館と総務館は向かい合う形で配置されており、どちらかのみに焦点が絞られているわけではありません。知性を代表する図書館と、キリスト教を代表する講堂とソールチャペルを含む総務館が、同じ比重をもって配置されている。また人文科学・社会科学を学ぶ文学館と、自然科学を学ぶ理学館が、切り離された別個の建物としてではなく、中庭を挟んで向かい合う形で配置されたことは、リベラルアーツ教育の本質をキャンパス・デザインとして表現したものであると言えるでしょう。「キリスト教信仰に基づいたリベラルアーツ教育」という神戸女学院の教育理念を、建築において表現しようとしたヴォーリズの思いが、「閉じられたクォドラングル」として表現されました。

イギリスの大学の「閉じられたクォドラングル」と神戸女学院のそれとを比較するとき、建築学的な違いが明らかになります。イギリスの「閉じられたクォドラングル」を形作る「ロ」の字型の校舎は、中世イギリスの修道院を連想させるような、石造りの窓の小さな一体の建物であったのに対して、神戸女学院の「閉じられたクォドラングル」を形成する４つの建物は、渡り廊下で結ばれた、それぞれ独立した建物であり、しかも大きな窓を備えたスパニッシュ・ミッション・スタイルの開放的な建築であったために、「閉じられたクォドラングル」でありながら、イギリスの大学のクォドラングルに見られるような閉塞感とはまったく異質な、開放的な「閉じられたクォドラングル」となりました。

岡田山キャンパスに見られるような、スパニッシュ・ミッション・スタイルの校舎群による「閉じられたクォドラングル」としてのキャンパス・デザインは、日本の他の大学だけでなく、アメリカの大学にも類例を見つけることのできない、貴重で独自なキャンパス・デザインであると言うことができると思います。

KCCだより

［Kobe College Corporation–Japan Education Exchange（KCC–JEE）is a non-profit organization established in 1920 in Chicago, Illinois, U.S.A. Since the establishment, KCC–JEE has been in partnership with Kobe College to create cross-cultural educational experiences for students and teachers in Japan and in the U.S.］

Long-time KCC–JEE Leader Reflects on Visit to Kobe College

Prof. David J. Therkelsen
KCC–JEE ex President

Last November I had the honor to spend a week at Kobe Jogakuin. I'd been involved with KCC–Japan Education Exchange for many years. This was my third visit to Kobe Jogakuin.

I was invited by Chancellor Mori and Prof. Furusho to serve as a visiting lecturer, to the Faculty of Literature. I presented a communication model（called Message to Desired Action）that I published in an English-language scholarly journal several years ago. I was pleased to present this to the Faculty of Literature in hopes that this model would be interesting and useful to faculty members at Kobe Jogakuin as well.

While this lecture was the official purpose for my visit, it was just part of a week of activities on Kobe Jogakuin's beautiful campus. I spoke on three other occasions: Chapel talk, at Assembly, and in a class in the Department of Intercultural Studies taught by the energetic young Prof. Kayoko Kageyama.

I also had numerous meetings, including with Dr. Ii, President of Kobe Jogakuin; the KCHS English faculty, Prof. Ozawa and the Gottschalk teachers, and Mrs. Hashimoto, the head of Megumikai. There were other opportunities to participate in campus life as well. I visited the flower arrangement club, and even made an arrangement myself, and observed a very high-energy ballet class.

There were some graciously hosted social events, where I got to visit with other old friends from my involvement with KCC–JEE, including Keiko Harada, Eiko Ito, Kurose-Takenaka-san, to name just a few. Another highlight was an evening of dinner and classical music at the home of long-time friends Dr. and Mrs. Adachi.

At one reception I was honored to receive a conch shell origami, and two books on origami, from Prof. Tateishi. The books are in my home for now, but I will donate them eventually to a Japanese cultural library in Minnesota, where I live.

As full as my schedule was on campus, I got away a couple of times, too. I visited Bunraku in Osaka and got a backstage tour. I went to Kobe, where I saw the site of the original Kobe Jogakuin and visited Eliza Talcott's grave. I also visited the earthquake museum in Kobe.

Many people at Kobe Jogakuin helped make my visit joyful and memorable. I should especially mention Mr. Kadoya and Ms. Hirayama in the School of Letters Office. And Atsuko Ide and Haruhi Murata took incredible care to make sure every detail of my visit was perfect. My deepest thanks to these individuals and so many more.

My time in Okadayama was a whirlwind. But since my return I've had several months to reflect further, on Kobe Jogakuin, on KCC–Japan Educational Exchange, and about their remarkable 93-year history. When I spoke to Assembly last November, I included this passage, which I'll close on:

As a leader of KCC–JEE, I've known Kobe Jogakuin interns, KCC–JEE graduate fellows, students, chancellors, faculty, all kinds of people who know that international exchange really matters. It transforms lives.

And not just individual lives. Every Kobe Jogakuin student who, at an impressionable age, receives a warm welcome in the United States will herself be a lifelong ambassador for the importance of understanding across boundaries. Every Graduate Fellow who completes a doctorate degree will, over his or her career, influence hundreds or more likely thousands of students in classrooms. Every Gottschalk Teacher will change the lives of her students, and in turn be changed by her three years at Kobe Jogakuin.

［コーベ・カレッジ・コーポレーション（KCC）は、1920年の創立以来、絶えず海の向こうから神戸女学院の学びを支えてくださっている、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体（NPO）です。今年、移転80周年を迎える岡田山のキャンパス造営に対する多大な貢献をはじめとして、その活動が神戸女学院にもたらしている恩恵は実に多岐に亘っています。2004年、KCC は21世紀におけるその活動方針を明確にするため、名前の後にジャパン・エデュケーション・エクスチェンジという副称を付け加えて通称 KCC–JEE となりました。前会長の Prof. Therkelsen が今回、KCC だよりをお送りくださいました。］

「神戸女学院を訪問して」

KCC-JEE　前会長
David J. Therkelsen

昨年の11月、私は、神戸女学院で１週間を過ごす光栄を得ました。私は長い間にわたってKCC-JEEの活動に携わってきましたので、これが３回目の訪問でした。

今回私は、森院長と古庄教授に文学部教授陣対象の講演者として招かれ、数年前私が英語学の学術雑誌に発表した、「Message to Desired Action（期待行動のためのメッセージ伝達）」というコミュニケーションモデルについて講演しました。この機会が与えられたことを大変うれしく思い、またこのモデルが神戸女学院の教授陣にとっても興味深く有益なものとなることを願っています。

この講演が、私の訪問の公式の目的でしたが、神戸女学院の美しいキャンパスでの１週間は種々の行事でいっぱいでした。講演以外にも３回、大学の礼拝、アッセンブリーアワー（研究所主催講演会）と総合文化学科の精力的な若き景山佳代子先生のクラスで話をしました。

また多くの会合があり、神戸女学院大学学長の飯先生、神戸女学院中高部英語科の小澤先生とGottschalk teachersとよばれるKCC-JEEが支援しているアメリカ人英語教員の方々、そしてめぐみ会会長の橋本さんとお目にかかりました。その他にも学生のキャンパスライフの一端を見る機会もありました。大学華道部を訪ねたときは、私も花を生ける体験をしましたし、非常に躍動的なバレエのクラスも参観しました。

神戸女学院の皆様は、私のためになごやかな食事会を何度か開催してくださり、これまでのKCC-JEEでの活動で出会った懐かしい友人たちと旧交をあたためることができました。たとえば原田恵子先生、伊藤栄子先生、黒瀬（竹中）さんたちです。また長年の友人である足達先生ご夫妻のお宅で、ディナーとクラシック音楽の夕べを過ごしたことも忘れられない思い出です。

あるパーティのとき、光栄にも立石教授に、折り紙でできた巻貝と２冊の折り紙の本を頂戴しました。本は今、私の家にありますが、そのうちミネソタの日本文化図書館に寄贈するつもりです。

神戸女学院での忙しい日々の合間をぬって、私は、大阪の国立文楽劇場を訪ね、舞台裏をみせてもらったり、神戸の神戸女学院発祥の地を見てから、イライザ・タルカット女史の墓参をし、阪神淡路大震災記念「人と未来防災センター」にも行ってきました。

滞在中は、本当に多くの学院関係者が、私の滞在を楽しく思い出深いものとするためにお骨折りくださいました。なかでも、文学部事務室の門谷さん、平山さんに御礼を申し上げます、そして院長室の井出さんと村田さんは、綿密なスケジュールをすみからすみまで完璧にしてくださいました。お世話になったすべての皆様に深く御礼申し上げます。

私の岡田山滞在はつむじ風のように過ぎましたが、帰国して数ヶ月、神戸女学院について、そしてKCC-JEEについて、また両者の93年にも及ぶ輝かしい歴史に思いめぐらす時間がありました。最後に、昨年11月のアッセンブリーアワーで述べたことを引用して結びのことばといたします。

KCC-JEEの理事として、神戸女学院大学のインターン学生、KCC-JEEプログラムの大学院生、学生、院長、教授、国際交流の意義を深く認識している様々な人々と出会いました。国際交流はまさに人生を変えるのです。

それも単に個人の人生だけではありません。多感な時期にアメリカで暖かく迎えられた神戸女学院の学生生徒は、生涯を通じて、国境をこえた理解の大切さを身をもって示す人となり、博士課程を終えた大学院生は、そのキャリアを通じて、何百何千もの学生生徒に影響をあたえるでしょう。中高部のGottschalk teachersもまた、生徒たちの人生に影響を与え、そして同時にみずからも神戸女学院での経験によって変えられるのです。

国立文楽劇場楽屋にて、右は人形遣いの吉田勘市さん

タルカット先生墓前にて

2013年度愛校バザー

今年は、神戸女学院がここ岡田山に移転して80年ということで、「岡田山キャンパス移転80周年記念神戸女学院愛校バザー」と銘打って５月25日に開催されました。これまで講堂で行われていた開会宣言を、今年はバザー会場を見渡せる屋外の放送席に移し、森院長の開会宣言を合図に、すでに長い列を作っておられた来場者の方々が一斉に買い物をスタートしました。絶好の日和のもとで、新緑の岡田山キャンパスが学生・生徒、そのご家族や同窓生など約六千人の人達で賑い、今年もそこで多くの出会いがあり、また旧交を温める機会にもなったことと思います。昨年は万一の雨天に備えて試験的に大型のテントを導入しましたが、評判も良かったため、今年は３張に増やして屋外の売店はほぼその中に収容することができました。今後は、多少の雨であれば、あわてて売店を校舎内に移動することなく、準備どおりの配置で開催できる目途がたちました。また、今年の春休みに構内の安全確保を目的に正門からの交通量を削減すべく、西門からの進入路の拡幅と理学館裏にロータリーの整備工事を済ませていたため、タクシーや自動車の流れがこれまでになくスムースになり、安全性も向上いたしました。

今年も、同窓生、PTA、学生・生徒をはじめ関係者の皆様のご奉仕、ご協力により、事故もなく盛況のうちにバザーを開催できましたことを、心より感謝申しあげます。

（愛校バザー実行委員長）

大テント売店

新任のことば

個人情報保護のため、
５ページ目右段から
13ページ目は
削除しています。

人　　事

個人情報保護のため、一部削除しています。

学内人事

慶　弔

個人情報保護のため、一部削除しています。

栄　誉

神戸女学院教育振興会寄付金

同窓生	521件	8,494,800円
保護者（大学・中高）	179件	17,617,000円
学外役員・評議員等	29件	1,975,000円
教職員・旧教職員等	64件	2,640,700円
めぐみ会・企業法人等	22件	3,585,289円
合　　計	815件	34,312,789円

（以上2012.4.1～2013.3.31受付分）

個人情報保護のため、
一部削除しています。

インターネットによる寄付金の取扱開始

このたび教育振興会では、神戸女学院のホームページから、インターネットでご寄付いただける仕組みを導入しました（クレジットカードによる決済です）。

平日の日中に金融機関の窓口へ行きにくい方などご帰宅後にいつでも寄付のお手続きができるようになりました。

なお、今後も郵送でのご案内は継続いたしますので、金融機関の窓口でもお手続きいただけます。

【ご利用方法】

学院・大学のホームページ上の「ご寄付のお申込み」バナーからインターネット寄付金サイトにリンクしています。

〈学校法人神戸女学院〉
http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html

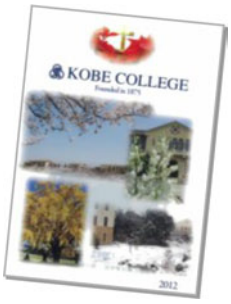
〈神戸女学院大学〉
http://www.kobe-c.ac.jp/

【ご利用上の注意事項】

クレジットカードによる決済のため、寄付金が本学院に入金されるのは、お申込日から約２ヶ月後です。（領収証の日付も約２ヶ月後になります。）

税務申告や芳名録掲載は、領収書の日付となりますので、この点をご了解の上、お手続き願います。

また、詳細なご利用上の注意事項は、インターネット寄付金サイト上に掲載していますので、ご確認の上、ご利用願います。



【取扱開始日】

2013年３月15日（金）から取扱いを開始しています。

神戸女学院2012年度決算報告及び2013年度事業計画

2012年度に実施した事業の内容及び2013年度事業計画の詳細は、『2012年度事業報告書』に記載しております。以下の本学院ホームページをご覧ください。
http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html
また、当該ホームページ上では、決算書も公開しておりますので、併せてご参照下さい。

Ⅰ．2012年度神戸女学院決算報告

1．2012年度決算の概要

消費収支についてみると、今年度は87百万円の消費支出超過となり、翌年度繰越消費支出超過額は８億86百万円となりました。

まず、収入の部については、在校生数に著しい変動はなく、学生生徒等納付金は前年度並みとなりましたが、定員管理の精度が高まったことなどから私立大学等経常費補助金収入が増加（前年度比43百万円増）しました。一方で、前年度固定資産売却により計上した資産売却差額の要因剥落により93百万円が減少し、帰属収入は52億90百万円（前年度比45百万円減）となりました。

次に、消費支出の部については、前年度に実施したネットワーク・情報教育システムの更新に匹敵する大規模な投資がなかったため、前年度比２億37百万円減の47億49百万円と一昨年並みとなりました。

その結果、帰属収支差額は５億41百万円の収入超過となり、帰属収支差額比率についても10.2％と、目標値である8.0％を上回る結果となりました。

一方、Kobe College International Students House（土地支出１億50百万円）や倉庫（４）新築工事（建物支出35百万円）、EUC クラス分けシステム（教育研究用ソフトウェア支出18百万円）などの設備投資や、設備投資にかかる借入金返済（２億26百万円）を実行した結果、今年度は６億28百万円の基本金組入が必要となり、消費収支差額は、87百万円の消費支出超過となりました。

以上により、翌年度繰越消費支出超過額は８億86百万円となっていますが、2013年度も、中高部２号館新築工事などの設備投資を計画しており、今後も更なる繰越消費支出超過が見込まれるため、引き続きこの解消に向けた努力を進めてまいります。

また、資金収支についてみると、収入の部は、前年度に実施した財投機関債の売却や経営充実資金の新規借入を今年度は実施していないため、減収となりました。一方、支出の部は、借入金の繰上償還額も前年度より少額となり、また、大規模設備投資案件のうち文学部１号館の改修及び中高部タルカット記念館のバリアフリー化を次年度以降に延期したため、施設関係支出、設備関係支出ともに減少し、次年度繰越支払資金は前年度比17百万円増の25億67百万円となりました。

2．資金収支計算書

資金収支計算書は、学校法人における当年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当年度における現金・預金の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。

大科目レベルの資金収支計算書は、表１のとおりとなりました。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

2012年度の本学院の資金収支計算書の概要について**前年度決算と対比**しながら以下に記載します。

（１）収入の部

【学生生徒等納付金収入】

授業料や入学金などの学生生徒等納付金収入は、在校生数に著しい変動がなかったため、前年度並みとなりました。

（表１）**資金収支計算書**　（単位：百万円）

収入の部

科目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	(A)－(B)
学生生徒等納付金収入	4,230	4,231	4,231	△ 0
手数料収入	86	89	98	△ 9
寄付金収入	70	74	79	△ 5
補助金収入	479	520	491	29
資産運用収入	68	68	100	△ 32
資産売却収入	—	0	516	△ 516
事業収入	90	92	61	31
雑収入	204	211	172	39
借入金等収入	—	—	300	△ 300
前受金収入	819	814	842	△ 28
その他の収入	214	228	665	△ 437
資金収入調整勘定	△1,034	△1,034	△ 943	△ 91
前年度繰越支払資金	2,550	2,550	2,921	△ 371
収入の部合計	7,777	7,847	9,539	△1,692

支出の部

科目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	(A)－(B)
人件費支出	3,097	3,097	3,066	31
教育研究経費支出	1,069	1,022	1,260	△ 238
管理経費支出	296	289	307	△ 18
借入金等利息支出	11	10	26	△ 16
借入金等返済支出	286	286	658	△ 372
施設関係支出	265	261	389	△ 128
設備関係支出	91	101	225	△ 124
資産運用支出	137	138	997	△ 859
その他の支出	159	157	205	△ 48
資金支出調整勘定	△ 109	△ 85	△ 148	63
次年度繰越支払資金	2,472	2,567	2,550	17
支出の部合計	7,777	7,847	9,539	△1,692

【手数料収入】
入学検定料などの手数料収入は、大学志願者数の減少により、前年度比９百万円の減となりました。
【寄付金収入】
本学院在校生の保護者、同窓生、企業や団体、教職員などからの寄付による寄付金収入は、教育振興会を通じての寄付が中心で、前年度比５百万円の減となりました。
【補助金収入】
国や地方公共団体等からの補助金収入は、大学改革推進等補助金がなくなったものの、私立大学等経常費補助金の増（43百万円）や私立大学教育研究活性化設備整備事業補助金（13百万円）を新たに計上したこと等により、今年度は29百万円の増となりました。
【資産運用収入】
今年度は市場動向を踏まえ、安全性重視の運用を行った結果、前年度比32百万円の減となりました。
【資産売却収入】
前年度は、妙高高原の土地売却収入15百万円や財投機関債を中心とした有価証券売却収入４億99百万円を計上していますが、今年度は大規模の資産売却は実施していません。
【事業収入】
前年度は、学生寮エアコン等改修工事費27百万円を計上したこと等により補助活動収入が減少していましたが、今年度は特殊要因がないため平年並みとなりました。
【雑収入】
今年度は、選択定年制を含む定年退職者が増加したため、私学退職金財団交付金収入が前年度比38百万円の増となりました。
【借入金等収入】
前年度は、日本私立学校振興・共済事業団から経営充実資金として、３億円の新規借入を実行しました。
【前受金収入】
翌年度の授業料や入学金などの前受金収入は、大学入学者数が前年度比約30名減少したことなどにより、前年度比28百万円の減となりました。
【その他の収入】
前年度は、減価償却引当特定資産の対象資産を有価証券科目に振替えましたが（４億６百万円）、今年度は振替処理を実施していないため、前年度比減となっています。
（２）支出の部
【人件費支出】
今年度の人件費支出は、ほぼ前年度並みの支出となりました。
【教育研究経費支出】
前年度はネットワーク・情報教育システムの更新に伴い、消耗品費等で２億20百万円の経費を計上していたため、前年度比２億38百万円の減となっています。
【管理経費支出】
教育研究以外のために支出した経費は、印刷製本費が減少（22百万円減）したことなどにより、前年度比18百万円の減となっています。
【借入金等利息支出】
借入金等利息支出の減少は、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金を返済したことに伴う借入金元本の減少によるものです。
【借入金等返済支出】
前記、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の約定返済１億22百万円に加え、繰上償還（１億64百万円）を実施しました。
【施設関係支出】
施設関係支出は、前年度比１億28百万円の減となりました。今年度の主な内訳は、Kobe College International Students House の用地購入に伴う土地支出（１億50百万円）、倉庫（４）の新築工事に伴う建物支出（35百万円）です。
【設備関係支出】
教育研究用の機器備品や資産計上する図書などへの支出である設備関係支出は、前年度比１億24百万円の減となりました。今年度の主な内訳は、ラーニング・コモンズ関連設備費用（５百万円）などの教育研究用機器備品支出（46百万円）、図書支出（27百万円）、EUC クラス分けシステム（18百万円）などの教育研究用ソフトウェア支出（22百万円）です。
【資産運用支出】
前年度は、減価償却引当特定資産の対象資産を有価証券科目に振替えましたが（８億13百万円）、今年度は振替処理を実施していないため、前年度比減となっています。今年度の主な内訳は、第３号基本金引当資産支出（１億22百万円）です。
【その他の支出】
前年度に計上していた預り金支払支出（36百万円）、仮受金精算支出（15百万円）が今年度はないため、前年度比では減少しています。

３．消費収支計算書
消費収支計算書は、学校法人における当年度の消費収入（学校法人の負債とならない収入である帰属収入から基本金に組入れる額を控除して計算するもの）、消費支出（当該年度において消費する資産の取得価額及び用役の対価に基づいて計算するもの）の

（表２）**消費収支計算書** （単位：百万円）

消費収入の部

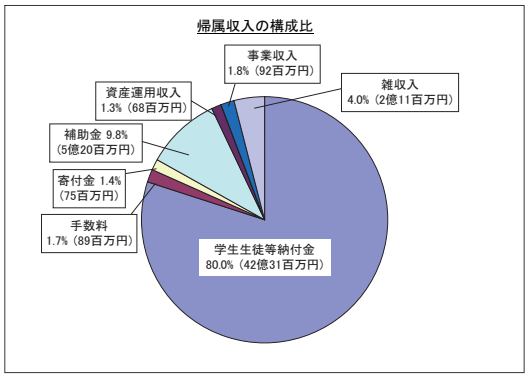
科目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	(A)-(B)
学生生徒等納付金	4,230	4,231	4,231	△ 0
手数料	86	89	98	△ 9
寄付金	71	75	82	△ 7
補助金	479	520	491	29
資産運用収入	68	68	100	△ 32
資産売却差額	—	0	93	△ 93
事業収入	90	92	61	31
雑収入	204	211	175	36
帰属収入合計	5,229	5,290	5,335	△ 45
基本金組入額合計	△ 666	△ 628	△ 924	296
消費収入の部合計	4,563	4,661	4,411	250

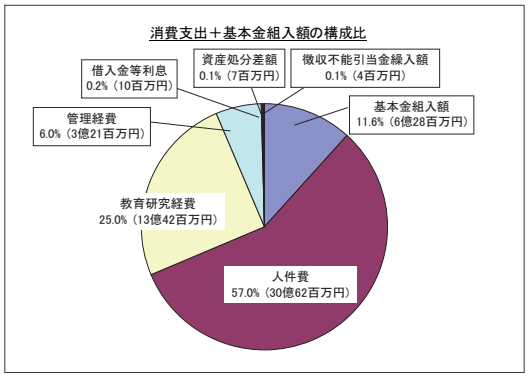
消費支出の部

科目	本年度予算	本年度決算(A)	前年度決算(B)	(A)-(B)
人件費	3,065	3,062	3,013	49
教育研究経費	1,388	1,342	1,549	△ 207
管理経費	328	321	355	△ 34
借入金等利息	11	10	26	△ 16
資産処分差額	12	7	40	△ 33
徴収不能引当金繰入額	—	4	—	4
徴収不能額	—	—	0	△ 0
消費支出の部合計	4,804	4,749	4,986	△ 237

当年度消費収入(△支出)超過額	△ 241	△ 87	△ 575	488
前年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 798	△ 798	△ 222	△ 576
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△1,039	△ 886	△ 798	△ 88

帰属収支差額	424	541	348	193





内容及び均衡状態を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。学校法人は営利法人ではないため、基本金組入れを行った後の消費収入と消費支出が長期的にほぼ同額でつり合うことが望ましいとされています。

大科目レベルの消費収支計算書は、表２のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

2012年度の本学院の消費収支計算書の概要について以下に記載します。

（１）消費収入の部

【帰属収入合計】

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入については、寄付金に現物寄付（１百万円）が含まれることを除き、ほぼ資金収支計算書の収入の部と同様の内容です。なお、資産売却差額については、固定資産の売却益を計上しています。

これにより帰属収入の合計は、予算比61百万円増の52億90百万円となりました。

【基本金組入額】

第１号基本金（学校法人が保有する固定資産のうち、教育の充実向上の用に供されるものを組み入れる）へ５億６百万円を組入れました。主な内訳としては、Kobe College International Students House の用地購入に伴う土地支出（１億50百万円）や倉庫（４）の新築工事に伴う建物支出（35百万円）などの固定資産取得によるもののほか、借入金返済分２億26百万円も組入れています。

また、第３号基本金（奨学金などの教育研究活動に基金の運用果実をもって運営するために組み入れる）へ１億22百万円を組入れました。

【消費収入の部】

上記により消費収入の部合計は、予算比98百万円増加し、46億61百万円となりました。

（２）消費支出の部

【消費支出の部】

人件費は、資金収支計算書の人件費支出から退職金支出（２億46百万円）を控除し、退職給与引当金繰入額（２億12百万円）を加算しています。

教育研究経費と管理経費は、資金収支計算書の各経費支出に減価償却額（計３億51百万円）を加算していることが大きな違いです。そのほかは、ほぼ資金収支計算書と同様であり、結果、消費支出の部は、予算比55百万円減の47億49百万円となりました。

４．貸借対照表

貸借対照表は、貸借対照表日（2013年３月31日）

（表３）**貸借対照表**　（単位：百万円）

資産の部

科目	本年度末(A)	前年度末(B)	(A)－(B)
固定資産	14,927	14,833	94
有形固定資産	8,611	8,622	△ 11
土地	1,323	1,173	150
建物	4,326	4,456	△ 130
構築物	544	552	△ 8
教育研究用機器備品	445	498	△ 53
その他の機器備品	25	27	△ 2
図書	1,940	1,913	27
車両	0	0	△ 0
建設仮勘定	4	0	4
その他の固定資産	6,316	6,211	105
教育研究用ソフトウェア	37	20	17
その他のソフトウェア	16	15	1
電話加入権	3	3	0
有価証券	426	426	0
差入保証金	3	3	0
出資金	19	27	△ 8
貸与奨学金	287	295	△ 8
退職給与引当特定資産	1,472	1,506	△ 34
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	0
岡田山建築保存引当特定資産	67	51	16
第３号基本金引当資産	845	722	123
その他	0	0	0
流動資産	2,768	2,699	69
現金預金	2,550	2,532	18
修学旅行費預り資産	17	18	△ 1
未収入金	191	137	54
前払金	9	12	△ 3
資産の部合計	17,696	17,533	163

負債の部

科目	本年度末(A)	前年度末(B)	(A)－(B)
固定負債	1,829	2,138	△ 309
長期借入金	348	614	△ 266
退職給与引当金	1,472	1,506	△ 34
長期未払金	9	18	△ 9
流動負債	1,100	1,169	△ 69
短期借入金	102	122	△ 20
未払金	85	110	△ 25
前受金	814	842	△ 28
預り金	81	75	6
修学旅行費預り金	17	18	△ 1
負債の部合計	2,930	3,308	△ 378

基本金の部

科目	本年度末(A)	前年度末(B)	(A)－(B)
第１号基本金	14,434	13,928	506
第３号基本金	845	722	123
第４号基本金	373	373	0
基本金の部合計	15,652	15,023	629

消費収支差額の部

科目	本年度末(A)	前年度末(B)	(A)－(B)
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 886	△ 798	△ 88
消費収支差額の部合計	△ 886	△ 798	△ 88

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計

科目	本年度末(A)	前年度末(B)	(A)－(B)
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	17,696	17,533	163

における学校法人の財政状態を明らかにするために作成します。

大科目レベルの貸借対照表は、表３のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

2013年度の本学院の貸借対照表の概要は以下のとおりです。

（１）資産の部

資産の部は、前年度末比１億63百万円増の176億96百万円となりました。主な要因は以下のとおりです。

【固定資産】

土地・建物・備品などの有形固定資産は、Kobe College International Students House の用地購入や倉庫（４）新築工事などを実施したものの、減価償却等による減少額が今年度の取得額を上回ったため、前年度末比11百万円減の86億11百万円となりました。

その他の固定資産は、退職給与引当特定資産を取崩した一方、第３号基本金引当資産を積増したことなどにより、前年度末比１億５百万円増の63億16百万円となりました。

その結果、固定資産は、前年度末比94百万円増の149億27百万円となりました。

【流動資産】

流動資産は、選択定年制を含む定年退職者の増加に伴い、私学退職金財団交付金収入等の未収金が増加したことなどから、前年度末比69百万円増の27億68百万円となりました。

（２）負債の部

負債の部は、前年度末比３億78百万円減の29億30百万円となりました。主な要因は以下のとおりです。

【固定負債】

固定負債は、繰上償還（１億64百万円）や短期借入金への振替（１億２百万円）による長期借入金の減や、勤続年数の長い教職員の退職に伴う退職給与引当金の減（34百万円）などにより、前年度末比３億９百万円減の18億29百万円となりました。

【流動負債】

流動負債は、繰上償還に伴う短期借入金の減少などにより、前年度末比69百万円減の11億円となりました。

（３）基本金の部

基本金の部は、前年度末比６億29百万円増の156億52百万円となりました。これは、第１号基本金（学校法人が保有する固定資産のうち、教育の充実向上の用に供されるものを組入れる）の増加（５億６百万円）、第３号基本金（奨学金などの教育研究活

動に基金の運用果実をもって運営するために組み入れる）の増加（１億23百万円）によるものです。

（４）消費収支差額の部

消費収支差額の部は、支出超過が前年度より88百万円拡大し、８億86百万円の繰越消費支出超過となりました。

Ⅱ．2013年度神戸女学院事業計画

１．今後の運営方針及び2013年度予算編成について

神戸女学院はキリスト教信仰と国際理解の精神を教育の根幹とし、豊かな自然とヴォーリズ設計による校舎群が美しく調和する岡田山のキャンパスにおいてリベラルアーツ＆サイエンス教育を実践し女子教育における先駆的な役割を果たしてきました。急激な少子高齢化の進行、グローバル化、地域コミュニティの衰退など社会の変化による諸課題が山積する中、各大学には新たな大学改革の方向性を示し、社会変革のエンジンとなる大学づくりが求められています。このような状況のもと、本学も伝統的な全人教育の質を一層向上、発展させながら広く社会の期待に応えるため、引き続き有効な事業計画を推進し、合わせてめざす教育事業の永続性を担保するべく財務基盤の強化を図ってまいります。

2013年度も引き続きハード、ソフト両面から学生・生徒のための教育環境整備を主眼に、必要な事業について予算措置を行いました。施設・設備面では、大規模事業として中高部２号館建替え（地上３階建）の施工を７月から開始し、2014年夏の竣工をめざします。また、講堂の空調設備改修や中高部１号館の空調熱源改修など中長期整備計画にもとづく改修をはじめ、デフォレスト記念館の教室整備、文学館１階トイレ改修など老朽化した設備の改修、改善を実施する予定です。中高部タルカット記念館には2012年度の工事計画を再精査のうえエレベーターを付設し、学内のバリアフリー化を推進します。

教育施策の重点的課題として、2013年度から大学に開設される共通英語教育研究センターのための予算を計上し、専任教職員スタッフの拡充を含め、新たな共通英語カリキュラム展開のための措置を行いました。また関連する入試広報を強化し、受験生の増加を促進します。その他、引き続き厳しい就職活動の支援プログラムをはじめ、競争力維持のために優先的に必要とされる諸策に対して適切に予算措置を行いました。

これらの結果、2013年度予算編成においては繰越消費支出超過額が拡大する見通しです。収入面の柱である学納金、補助金等の増収が困難になりつつあることに加えて、2014年度からは消費税増税による固定的経費の負担増が見込まれ、めざすべき収支均衡にとって厳しい状況が続きます。このような環境下で競争力を担保するための事業計画を適宜推進しつつ財務状況の健全化を図るためには、支出面での合理性、優先性を一層精査し、予算配分、予算執行の規律を高めていくことが不可欠であり、この課題を全教職員で共有していきます。また中長期の財政の健全化を踏まえ、新たに2017年度達成をめざした財務比率目標値（対帰属収入比）を設定し、必要な改善努力を行います。主な財務比率は、人件費比率57.0％、教育研究経費比率27.6％、帰属収支差額比率8.8％です。

２．2013年度予算書

以上の計画を受けて、2013年度資金収支予算書は、表４、消費収支予算書は表５のとおりとなりました。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。なお、前年度繰越支払資金、前年度繰越消費支出超過額は、予算編成時の額であり、決算金額とは異なります。）

（表４）

2013年度資金収支予算書

2013年4月 1日から
2014年3月31日まで

（単位：百万円）

収入の部

科目	金額
学生生徒等納付金収入	4,153
手数料収入	89
寄付金収入	50
補助金収入	476
資産運用収入	67
事業収入	93
雑収入	214
前受金収入	821
その他の収入	226
資金収入調整勘定	△1,042
前年度繰越支払資金	2,472
収入の部合計	7,620

支出の部

科目	金額
人件費支出	3,086
教育研究経費支出	1,139
管理経費支出	316
借入金等利息支出	4
借入金等返済支出	102
施設関係支出	305
設備関係支出	121
資産運用支出	137
その他の支出	156
資金支出調整勘定	△ 115
次年度繰越支払資金	2,368
支出の部合計	7,620

（表５）

2013年度消費収支予算書

2013年4月 1日から
2014年3月31日まで

（単位：百万円）

消費収入の部

科目	金額
学生生徒等納付金	4,153
手数料	89
寄付金	51
補助金	476
資産運用収入	67
事業収入	93
雑収入	214
帰属収入合計	5,144
基本金組入額合計	△ 528
消費収入の部合計	4,616

消費支出の部

科目	金額
人件費	3,085
教育研究経費	1,426
管理経費	347
借入金等利息	4
資産処分差額	12
消費支出の部合計	4,874

当年度消費収入(△支出)超過額	△ 258
前年度繰越消費収入(△支出)超過額	△1,039
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△1,297

帰属収支差額	270

新刊紹介

宮田道昭（総合文化学科准教授）　著

『上海歴史探訪
―近代上海の交友録と都市社会』

東方書店　2012年12月刊
144頁　1,600円＋税

みなさんは、上海にどのようなイメージを持っているだろうか？おそらく、商業・金融・工業・港湾など、現代中国の経済発展を象徴する都市としての顔を思い浮かべると思う。上海がこれほどまでに発展した契機は、1842年に結ばれた南京条約によって開港され、居留地が建設されたことにある。それまでの中国（清）は「海禁政策」を採って、対外的な交流を制限していた。しかし、アヘン戦争の敗北をきっかけとして、清も外国との関係を積極的に結ばざるを得なくなる。その清と外国との接触の場が、上海であった。

本書『上海歴史探訪』は、交流の場としての上海の歴史的な姿を、非常にわかりやすい言葉で描いている。戦争に敗北し、外国からの圧力によって開港された上海ではあったが、人々の交流は決して抑圧された／強制されたものではなく、非常に生き生きとした、人と人が積極的に触れ合うものであった。

日本で言えば、幕末にあたる時代である。日本も同じようにそれまでの「鎖国政策」から転換し、外国との接触を新たに始めた時期であった。日本からは、高杉晋作などが上海を訪れた。そこでは、清の人々とのあたたかな交流があったことが本書では描かれている。清国人にとっても、日本人にとっても、異文化との接触はこれまでほとんどなかった。そして彼らは積極的に交流をした。それも表面的ではなく、非常に密な間柄で。これまでに見聞したことのない文化に触れることで、彼らは価値観を様々に変化させていく。

現在、日中間の軋轢が数多く取り上げられているが、本書を読むと、そうした問題を解決する糸口はこの時期の人々の交流にあるように感じた。ぜひ一読をしてほしい。

（総合文化学科専任講師　河西 秀哉）

新刊紹介

岩田泰夫（総合文化学科教授）　著

①

②

①『私の教育実践３ 医療福祉現場での現任研修と演習の実際』
②『精神障害にチャレンジする人々との社会福祉実践と理論』
①相川書房　2013年２月刊／②2013年１月刊
①341頁　3,000円＋税／②330頁　3,000円＋税

筆者である岩田泰夫先生は、昨年公刊された単著２冊に引き続き、今年も単著を２冊上梓された。この時期、先生が学内外で八面六臂の活躍をされ、まさに多忙を極めておられていたことを想起すれば、その研究に対する並々ならぬ意欲と直向（ひたむ）きな努力に感嘆するとともに、深い敬意の念を表さずにはいられない。

『医療福祉現場での現任研修と演習の実際』は、３部から成る。第１部「ソーシャルワーカーになっていく過程」では、筆者自身がソーシャルワーカー（以下、SW）として歩んできたプロセスが丁寧に記されている。そして、それを踏まえて、SW の成長過程と各段階における課題が整理され、その対処法が提示されている。筆者のスーパービジョンが、まさに紙上で再現されているかのようだ。第２部では、SW が修得すべき基本的技能ともいえる事例検討と面接技法が取り上げられ、第３部では実践現場において有用なゲームが数多く紹介されている。専門家として成長し続けたい SW のためのまさに必携書である。

『精神障害にチャレンジする人々との社会福祉実践と理論』は、精神保健福祉総論および各論、そして事例を用いた演習の３つの要素を兼ね備えた著書である。つまり、理論書であるとともに実践書でもあるのが、本書の大きな特徴といえる。とはいえ、本書は、堅苦しい理論書とは一味違う。筆者によって噛み砕かれて語られる理論は非常にわかりやすく、それでいて奥深い。また、実践書の部分は、精神障害にチャレンジする人々、すなわち精神障害をもつ当事者の姿が、事例を通してよく見える。筆者が、徹底して社会福祉実践に寄り添った教育者であり研究者であることが読み取れる好著となっている。

（総合文化学科教授　金田 知子）

新刊紹介

藏中さやか(総合文化学科教授)　編著

『尾崎雅嘉
増補和歌明題部類　翻刻と解説』

青簡社　2013年３月刊
355頁　10,000円＋税

本書は、尾崎雅嘉が編んだ『増補和歌明題部類』(1794) を翻刻（活字化）し解説を加えたものである。翻刻は327頁に及ぶ。たいへんな労作である。

尾崎雅嘉（1755-1827）は、『群書一覧』(1802) や『百人一首一夕話』(1833) などで知られる大坂の国学者である。幼少から無類の本好きで、生涯に膨大な数の本を刊行している。なかでも功績の大きいのは国書を分類して著者名や内容、体裁や成立・刊行年等を示した『群書一覧』で、板本1077点、写本652点を扱う大部の書目解題書である。その背後には木村兼葭堂との交流があり、当時の大坂における文人サークルの充実ぶりを示す書といわれている。

『増補和歌明題部類』もまた「現存する歌題集成書中、最大規模」のものである。歌題集成書は出題者の手引き書として、歌人層が広がった中世から近世にかけてさかんに編まれるようになったという。本資料は歌題のすべてを、用いられた機会を特定して示すという「壮大な構想」のもとに編纂された。尾崎自身による後書きには『明題部類抄』(1650) の増補を企図したと記されているが、配列や区分の方法が異なること、増補された歌題は相当な数にのぼりその年代も三百年以上の期間にわたること、また冷泉家由来の記録等が参照されていたことなど、単なる増補に終わらぬ独自性があることが、解説で詳らかに指摘されている。和歌には素人の私にも、近世に至る和歌文化の分厚さが実感される資料である。歌会での出題状況や組題構成の変化、組題の転用の実態など、本資料を用いた今後の研究の方向性が示されていたが、和歌文学研究における有用性はきわめて高いことであろう。このように次代に遺る貢献度の高いお仕事の完成を、心よりお喜び申し上げたい。

（総合文化学科教授　飯田 祐子）

ＣＤ紹介

辻井　淳(音楽学科准教授)-ヴァイオリン-
藤井由美 -ピアノ-

ロシアの謝肉祭　他 全12曲

ISODA　2012年８月録音
2,500円（税込）

忘れられたカンタービレな名曲たち

とある「子どものためのスペシャル・コンサート」で、一人のヴァイオリニストが舞台から聴衆に向かって食べ物と栄養の話を熱心に語った。当日の来場者アンケートに、「コンサートに来て栄養の話を聞くことになるとは思わなかった」という感想があった。しかし、これは当のヴァイオリニストにとっては至極自然かつ切実な問題なのである。野球選手よりも故障の多い職業として知られるヴァイオリニストにとって、体作りの基本はよい筋肉を作ること。人間の細胞が一定の周期で入れ替わっているとするなら、そのためには食べ物を選んで良質のアミノ酸類を摂ることが肝要である。かくしてヴァイオリニストは、よい筋肉作りをめざして摂生の日々を送ることとなる。その姿勢は、市販のいい加減なお弁当など食べないというところにも現れている。

日々のこうした積み上げから出て来る音楽は、やはりその弾き手の精神を体現している。演奏はもちろん、選曲も一筋縄ではいかない。市販の楽譜がないような忘れられた名曲を、SP レコードのジリジリいう雑音の山の中から拾い出した成果がこれまでの録音にも多数収められてきた。それらはヴァイオリニスト自身が、ピアニストの協力を得て往年の名演奏家たちの古い録音から「聞き書き」したものである。今回の新しい CD にも、艶やかなヴァイオリンの音色に惚れ込んで、その持ち味を存分に生かした名曲たちが忘却の淵から掬い上げられて甦っている。ライナーノーツにあるように、「今日ではほとんど演奏されないが」「ヴァイオリンの音色が十分に味わえる」「開放弦の調性によって…楽器の持つ機能を極めて自然に表した曲」が集められている。

個人的には３曲目のブルッフが特に心に染み入る。皆さんも、ぜひ耳を傾けてみてほしい。

（音楽学科教授　津上 智実）

その他の新刊一覧

古庄　高（総合文化学科教授）　他著
『初年次教育の現状と未来』　（世界思想社）

史料室の窓(31)

キャンパス探訪（2）

岡田山のテーマパーク

神戸女学院史料室

皆さん、キャンパスの中にテーマパークがあるのをご存知ですか。えっ、テーマパーク？　学内に遊園地なんてあったかしら、と思った方が多いと思いますが、残念ながらそのテーマパークではありません。テーマ、すなわち主題、目的のあるパーク、公園という意味でのテーマパークです。実は学内には二つのテーマパークが存在するのです。

一つはすぐにわかると思います。図書館新館前にある憩いの空間、シェイクスピア・ガーデンです。名前からもわかるように、ここはイギリスの有名な劇作家ウィリアム・シェイクスピアの作品に登場する植物を集めたテーマガーデンです。

図書館新館（1984年完成）新築の際に、横の空間をどのように活用するかという話し合いの中で、その10年ほど前から要望の強かった英文学科の教材園としてシェイクスピア園（開園当時はこの名前でした）を作ろうということになり、1987年に誕生しました。

英文学でよく言及されるけれど、日本ではなかなか実物を見ることができない草花。それを集めて、見ることができるようにという願いを込めて作られました。

小規模ながら、シェイクスピア作品中の約170種の植物のうち、日本の気候・風土に合う約100種が育てられています。この時中心となった本学名誉教授はシェイクスピア園のガイドブックに次のようなコメントを残しています。

「外国の雑草の類いまで栽培する『神戸女学院シェイクスピア園』は、百花繚乱と咲き誇る花園にはならないかもしれない。しかし、本園が、美しいキャンパスに新たな花を添え、英文学の華の理解、鑑賞の助けとなり、また、この地に集うひとびとの精神を爽快にするのに役立つのであれば、幸いである。」

もう一つのテーマパーク、名は「万葉植物園」といいました。いいました、と過去形になっているのは、今はもうないからなのですが、現在、その名残を見ることができます。

正門を入って、少し行くと右手に自転車置き場があり、その奥に院長公舎が見えてきます。その建物から道路を挟んで左手、少し山側に茂みがあり、のぞいてみると小さな池があるのがわかります。その池の名前は「万葉池」といいます。「万葉園」の名残です。院長公舎を含むその一帯がかつてのテーマ園でした。

「云ふまでもなく万葉植物園は、万葉集に現れた植物を纏めて植え四季折々に生育の様子を眺めるに便したもので、それによって歌集を一層深く味はふ助けにするものである。」「万葉集は古代文学の國寶的な存在であり、日本精神の汪溢した和歌の寶庫と云はれるさうである。」（1940年３月発行『神戸女学院めぐみ』第21号）

当時の園芸専門の先生が中心となって、1940年から1941年にかけて、皇紀二千六百年（1940年）を記念して作られました。万葉集4,500首のうち３分の１に植物が歌われ、その種類は150種に及ぶそうです。実際にはどのくらい植えられていたかは今では不明ですが、この一帯には当時の植物がそのまま残っています。

また、「万葉池」には学術的にとても貴重なメダカがいて、早朝に研究者の先生方が池にいる光景を目にすることもあります。

キャンパスは自然の宝庫です。しかしその中に、教材園として作られた和洋二つのテーマパークがあったことは意外に知られていません。このことを心に留めて、キャンパス散策に出かけてみると、また違ったものが見えてくるかもしれません。

シェイクスピア・ガーデン

万葉池

＜オフィスの宝物＞

先代から引き継いだ宝物

施設課の業務としては、学校行事等の準備、清掃やライフラインの管理運営、庭園や樹木の管理、体育施設の管理、建物の改修、新築工事の計画・発注など様々な内容があります。日々、建物を管理・保守する上で三つの宝物を大切にする必要性を感じています。

一つ目は、1933年創建時に竣工した建物群です。主要な建築物は、西宮市の都市景観形成建築物、文化庁の登録有形文化財建造物として登録されています。また、それらの建物群を取巻く周辺の緑地帯は、野生植物や野鳥が生育・生息するのに相応しい環境であります。この様な環境は全国の学校でも数少ないキャンパス形成の教育環境に留まらず、地域における自然環境資源としての役割も果たしています。

二つ目は、岡田山キャンパス計画に当たって作図されたマスタープラン図を初め、建築図、意匠図、設備図等があります。ヴォーリズ博士が作図された図面も数多く残されており、ヴォーリズ建築を知る上での貴重な資料となっています。

その当時の図面の仕法としては、トレーシングペーパーに烏口（２枚のくちばし状の部分の間に墨汁を含ませて線を引くもの）で作図されており、今では珍しい図面となっております。これらの図面は、耐震補強時の構造設計や新築する際の意匠の参考とし、また、電気配管の系統を知る上でも貴重な資料となっています。

三つ目は、施設課の業務に従事する作業員の方々です。日々、課せられた業務に対する真摯な態度と丁寧な仕事ぶりは、先代から引き継いだ建物・教育環境を維持するために必要不可欠であり、誇りとなっております。

これら三つの宝物を、後世に引き継ぐことが、我々施設課に課せられた使命であると考えています。

（施設課）

情報処理センターの宝物

情報処理センターの業務は、本学のパソコンを使う学生や教職員への教学・事務的サポートです。当部署の宝物とは…高いスペックを誇るネットワーク・教育システム？はたまた隠れマスコット・野良の黒ネコ斑（ぶち）ネコ？いずれも宝物ですが、ここでは日々、情報科学関連の授業で学生のサポートを担当しているStudent Assistant（通称SA）について述べます。情報科学関連の授業はパソコンの基本技能・リテラシーを学ぶ授業であり、ほとんどの１年生が受講します。授業中に操作が分からない学生のサポートをする、いわば「お助けウーマン」的存在が本学在籍の２～４年生のSAです。パソコンの性能は日進月歩であり、学生のパソコン技術は個人差があります。そのためSAはパソコンの知識のみならず、学生個々人にあったサポートスキルも身に着けなければなりません。筆者もかつてSAでしたが、常のフィードバックとアップデートの「学び」が必要で楽とはいえない仕事です。それでも先輩SAの姿を見て憧れ、毎年の募集に応募してくる学生は絶えません。今年でSAも23期生を迎え総勢約400人が在籍していたことになります。いかにも崇高な精神で仕事をしているようですが、自然に「学び」の姿勢が連綿と息づいていることが当部署の何にも代えがたい宝物と言えます。この連綿とつづく様々な人的ネットワークを私たちは守っていきたいと願っています。

（情報処理センター）

スキルアップ講座を受講するSA

大学報告

共通英語教育研究センター開設

2010年11月発足の英語教育問題検討 WG（ワーキンググループ）を中心に、神戸女学院大学における共通英語教育の在り方について議論を重ね、大学のミッションステートメントに掲げる「共感性の高い人材」がグローバルな場で活躍できるようにすることを共通英語教育の大きな目標とすることに決めました。2011年11月に設立準備室を設け、共通英語教育に関する議論を深め、2013年４月１日に共通英語教育研究センターを発足させました。川越栄子教授、Kurtis A. McDONALD 准教授を共通英語教育センター専任教員として迎え、2014年度新入生からスタートさせる共通英語教育の準備を急ピッチで進めています。

１年生の共通英語の授業時間を週２コマから週４コマに増やします。１年生前期の「Reading and Writing English」の講義では、オリジナルテキストを用いて、神戸女学院大学の歴史、各学科の教育内容や大学生活の様子を英語で学ぶことを通じて、文法の基礎を復習し、読解力を養います。現在、川越先生を中心にオリジナルテキストの編集作業を進めています。さらに、スマホアプリを活用した語彙力アップ、学生のレベルに合わせた副読本の extensive reading など、学生が興味深く学ぶことができるような工夫を考えています。また、「Communication in English」、「Communication in English（Ⅱ）」では基本的な発音のルールを理解し、自然な英語を聞くことができ、自然な発音で話すことができる力を身につけ、神戸女学院大学での生活、将来の夢などをについて話すことにより、英語によるコミュニケーションスキルの基礎を学びます。１年生後期では、「Communication in English」、「Communication in English（Ⅱ）」で、前期の学習成果の上に public speaking の基礎を学び、他の人に自分の意見を述べ、英語でディスカッションする力を身につけます。「English for International Communication（Ⅰ）」では TOEIC のスコアアップに向けた授業を行い、「English in Practice（Ⅰ）」では学科別クラスで専門分野に関連する基礎的なテキストを読む力を身につけます。

２年生では、前期と後期に開講される「English Workshop」の授業で１つのテーマを選択し、それに関して学ぶとともに、英語でのプレゼンテーション力を養っていきます。前期には「English for International Communication（Ⅱ）」でさらに TOEIC スコアアップをめざし、後期の「English in Practice（Ⅱ）」では英語テキストを教材に学生の専門分野の知識をさらに深めていきます。従来の「TOEIC Preparation」と「TOEFL Preparation」も選択科目として開講し、さらなる TOEIC のスコアアップ、留学を視野に入れた TOEFL 対策にも対応していきます。

これまでの共通英語教育の成果を基盤に共通英語教育研究センターを中心に共通英語科目間の連携、授業担当教員との連絡を密にし、各学科の専門課程と有機的に接続することにより、３年生での外国書講読、フィールドワーク等を通じた国際交流などにつなげ、各学科の専門領域で英語が使える人材を養成します。

2014年度には４名の教員を新たに共通英語教育研究センターに迎える予定にしています。大学における共通英語教育を専門とする６名の教員で、共通英語教育および専門教育と連携した英語教育を推進します。さらに、新たな教育方法を研究し、神戸女学院大学の共通英語教育において実践するとともに、その成果を学内外に発表していきたいと考えています。

（共通英語教育研究センター長）

図書館新館にラーニング・コモンズ開設

本年４月、新年度のスタートと同時に、図書館新館に利用者に向けた新しい形態のスペースであるラーニング・コモンズ（LC）がオープンしました。図書館といえば、従来は静かに研究や学習にいそしむ場所であり、飲食はもってのほか、その他規則の多いところというイメージを持たれていますが、LC ではディスカッションやプレゼンテーションも可能です。さらに、蓋付きであれば飲み物の持ち込みも OK という、図書館内ではこれまでにない自由な場所です。

図書館にこのようなスペースが作られるようになった背景には、近年の大学図書館が抱えるさまざまな問題があります。図書館資料の電子化やインターネットの急速な発展により、図書館利用の方法の変化や図書館のありようの多様化が進みました。また、アクティブ・ラーニングなど大学における新しい授業形態の導入が、図書館に求められる機能の変化をもたらしています。そうした流れのなかで、図書館を学術情報集積地として捉え直し、利用者が図書・雑誌・電子化された情報を自由に駆使して能動的な学習・研究をすすめ、その成果を発信するところまでをも可能にする場所、という新たな位置づけが図書館に付与されることとなりました。この点が、神戸女学院大学の教育長期計画のうち新しいリベラルアーツ教育と学修支援体制の充実に合致するとして、図書館 LC 設置の具体化が実現しました。

LC 設置の検討は図書館内では少しずつ進められてきましたが、文部科学省の平成24年度私立大学教育研究活性化設備整備費補助金の交付、神戸女学院家庭会大学部会からのご厚意ならびに大学特別予算配分によって計画が具体化、本年２月から３月にかけ、新館１階・地下１階・４階グループ学習室の改装、本館閲覧室の無線 LAN 設備設置工事が行われました。

参考図書と雑誌を配していた新館１階は、可動式の机と椅子を備えたフリーエリア、大机を囲んで議論のできるディスカッションエリア、ほっと息抜きのできるソファーコーナーに生まれ変わりました。フリーエリアの家具類には明るくカラフルで機能的なものを採用、照明も LED を用いたスマートな器具に一新して利用者の気分を高める工夫をしています。ノートパソコンや小型プロジェクタ等の貸出機器も充実しています。以前からパソコンを使っての自習スペースとして活用されていた地下１階の自由閲覧室は、無線 LAN 設備を整えて１階と同じ可動式机と椅子を配置、LC として、より利用しやすい場所となりました。周囲の壁面に１階から移動した学術雑誌の配架スペースを設け、有効に活用しています。さらに、LC 設置の一環として４階のグループ学習室にテレビ会議システムを導入、学内外の大学や研究機関とリアルタイムで接続しての共同学習が図書館でも可能になりました。

また、キャンパスとともに80年の歴史を刻んできた図書館本館は、静かで雰囲気の良い自習スペースですが、静穏を保つためにパソコンの使用を禁止してきました。その環境を生かし、さらに情報アクセスを容易にするべく、無線 LAN のアクセスポイント新設とタブレット端末の貸出を実現しました。新館の LC はよりアクティブな学びの場として、本館は集中して学びを深める場として、学生の主体的・能動的な学びを支えるそれぞれの役割を果たしてゆくことが期待されています。

施設の整備にあわせて、LC での学びをサポートするしくみの充実も進めています。学生にとって身近な先輩である大学院生や大学院修了生を学習支援スタッフとして配置、図書館資料の利用方法だけでなくレポート作成や情報検索のアドバイスを受けやすいシステムの構築に取り組んでいます。

LC の整備は今年度も引き続き行っており、この新しいスペースを十二分に活用するべく、図書館でもさまざまな試みを計画しています。LC の特性が利用者の間に早く浸透し、教育研究の場で活かされるようにと願っています。

（図書館課長）

iLib（アイリブ）と名付けられたラーニング・コモンズ

大学春季宗教強調日礼拝
（創立者記念日礼拝）

創立者イライザ・タルカット先生の誕生日である５月22日を含む１週間は愛校週間として創立者の思いをあらためて思う一週間としています。

22日当日には再度山の外人墓地にあるタルカット先生の墓前にて礼拝を行い、帰路には山本通りにあった神戸女学院最初の敷地である神港学園に立ち寄り、当時の本学に思いを馳せるひと時をもちました。月曜日から木曜日のチャペルアワーでの奨励は３名のチャプレンの先生方と、本学の歴史に詳しい史料室の方に担当いただきました。愛校バザーもこの直後の土曜日に催されます。

今年も愛校週間のアッセンブリアワーである金曜日24日は、１年生全員が出席する「春季宗教強調日礼拝」を「創立者記念日礼拝」と合わせてまもりました。お話は学長・学院チャプレンの飯 謙先生がお引き受けくださり、『神戸女学院の創立者―イライザ・タルカット先生―』と題してご講演いただきました。お話は、神戸女学院の自由、闊達、前向きかつ能動的で、共感性の高い人格への成長を目指す学風の成り立ちについて理解を深めるためには、タルカット先生を知ることが重要であるとして、先生の生涯についてスクリーンに映す資料を活用して、わかりやすく教えてくださいました。タルカット先生はご親族のご不幸や病の看病など大変なことが続いた人生であったにも関わらず、先生の人生の歩みには「他者の呼びかけに応答する精神的な開放性」「たゆまぬ自己鍛錬」「自立（自律）性へのこだわり」の３要素がしっかりと根付いていたと見てとれます。すなわち絶えず自己鍛錬し、人から乞われそれに応える前向きな方であったということです。まさに、聖書のタラントン（才能、たまもの、能力）を隣人との喜びの為に一生懸命用いた人生を過ごされたのです。

飯先生はお話の最後を学生へのメッセージとして、「これからの人生で行き詰った時には、タルカット先生の生き様を是非思い起こしていただきたい。それが、私たちに一本の大切な線を用意してくれることと思います。」と締め括られました。

（チャプレン室）

家庭会大学部会総会報告

個人情報保護のため、
29ページ目から30ページ目は削除しています。

2013年度　大学・大学院入学試験結果概要

●大　学

学　部	学　　科	入学定員	入学者数
文学部	英文学科	140	163
	総合文化学科	200	220
音楽学部	音楽学科	46	53
人間科学部	心理・行動科学科	90	97
	環境・バイオサイエンス学科	80	90
合　　計		556	623

●大　学〔編入学（3年次）〕

学　部	学　　科	入学定員	入学者数
音楽学部	音楽学科	1	0

●大学院（修士課程・博士前期課程）

研究科	専　　攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻（英文学コース）	5	1
	英文学専攻（通訳・翻訳コース）	8	3
	比較文化学専攻	5	5
人間科学研究科	人間科学専攻	10	10
音楽研究科	音楽芸術表現専攻	7	4
合　　計		35	23

●大学院（博士後期課程）

研究科	専　　攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻	2	1
	比較文化学専攻	2	0
人間科学研究科	人間科学専攻	2	1
合　　計		6	2

2013年度　在籍学生数

（2013年5月1日現在）

●大　学

学年＼学部・学科（専攻）		文学部			音楽学部	人間科学部			合計
		英文学科	総合文化学科	小計	音楽学科	心理・行動科学科	環境・バイオサイエンス学科	小計	
1年	13000	163	220	383	53	97	90	187	623
2年	12000	175	237	412	41	106	94	200	653
3年	11000	154	215	369	50	102	98	200	619
4年	10000	166	233	399	56	100	84	184	639
	09000	15	16	31	6	6	5	11	48
	08000	2	5	7	0	1	1	2	9
	07000	4	0	4	0	0	0	0	4
	06000	1	0	1	0	0	0	0	1
合　計		680	926	1606	206	412	372	784	2596

●大学院修士課程・博士前期課程

学年＼研究科・専攻		文学研究科			人間科学研究科	音楽研究科	合計
		英文学	比較文化学	小計	人間科学	音楽芸術表現	
1年	1300	4	5	9	10	4	23
2年	1200	6	1	7	8	7	22
	1100	3	1	4	0	0	4
	1000	2	3	5	0	0	5
	0900	0	1	1	0	0	1
	0800						
合　計		15	11	26	18	11	55

●博士後期課程

学年＼研究科・専攻		文学研究科			人間科学研究科	合計
		英文学	比較文化学	小計	人間科学	
1年	1300	1	0	1	1	2
2年	1200	1	1	2	1	3
3年	1100	0	0	0	0	0
	1000	0	0	0	0	0
	0900					
	0800					
合　計		2	1	3	2	5

●科目等履修生

学　部	8
大学院	0

●聴講生

学　部	3
大学院	8

2012年度就職決定状況

学　　科	卒業生数	希望者数	決定者数	決定者数／希望者数	大学院進学者数
英　　文	183	149	144	96.6%	5
総合文化	224	187	179	95.7%	8
音　　楽	48	23	23	100.0%	5
心理・行動	96	72	69	95.8%	4
環境・バイオ	91	78	77	98.7%	5
合　　計	642	509	492	96.7%	27

（2013年４月末）

2012年度卒業生の就職状況は、就職決定率が96.7%で、リーマンショック前にはまだ及びませんが、昨年からはかなり回復した結果になりました。この学年は、経団連の倫理憲章改定により、企業の広報活動や就職情報サイトのオープンが従来より２ヶ月遅くなった最初の学年になります。ただ採用選考活動開始には変更がなかったため、実質的な就職活動の期間は２ヶ月短くなり、助走期間のない非常にタイトなスケジュールとなりました。例年を参考にできない状況で活動することとなった学年でしたが、厳選採用が変わらない中、この数字は学生一人ひとりが自己をしっかり見つめ、最後まで諦めず健闘した結果だと評価しています。

業種別の内定先の割合は金融・保険の19.6%を筆頭に、卸売・小売18%、製造14.1%、サービス12.9%、教育・学習支援7.6%と続いています。本学は一般企業を目指す学生が大多数で、公務員を目指す学生は少数派でしたが、今年は例年より多い８名が最終的に公務員の道を選びました。またJALが採用を再開したことも影響し、航空が客室乗務員とグランドスタッフを併せて22名と、例年よりかなり増えたのも今年の特徴です。その他、大手総合商社や大手広告代理店に総合職で内定を得た学生があったことも、後輩達にとってはモチベーションアップに繋がるニュースとなりました。

企業の規模別では、従業員1,000人以上の大企業への就職が全体の39.2%で、例年を少し上回っています。その一方、中堅・中小企業をしっかり視野に入れる学生が増えつつあるのも事実です。（300人未満の企業への就職は昨年比3.2ポイントアップ）「この会社では10年後の自分自身の姿がはっきりイメージできるから」と、頼もしい言葉とともに自ら開拓した中小企業に就職を決めた学生もありました。

キャリアセンターでは、高く安定した就職決定率を今後も維持できるよう、学生の意欲に合わせた少人数でのプログラムを増やすほか、様々な新しい取り組みを行っています。現４年生についても多くの学生達が就職活動継続中ですが、スタッフがエントリーシート添削、模擬面接や個別相談に日々応じています。また学内のシステムやメルマガを通じて、本学に届いたお薦めの求人情報も日々発信しています。粘り強く活動を継続することで道は拓けていきます。キャリアセンターをうまく利用して、一緒に頑張っていきましょう。

（キャリアセンター課長）

＜主な就職先＞

建設業
錢高組／竹中工務店／三井ホーム

製造業
オリバー／ゴンチャロフ製菓／サマンサタバサジャパンリミテッド／塩野香料／神鋼建材工業／千寿製薬／ダイキン工業／東芝テック／バイエル薬品／ハイレックスコーポレーション／三ツ星ベルト／ヤンマー／米久／ローム

情報通信・出版業
NTTファシリティーズ関西／山陰放送

運輸業
全日本空輸／日本航空／ANAエアサービス東京／ANAエアポートサービス／ANA大阪空港／ANA中部空港／ANA福岡空港／JALスカイ／JALスカイ東京／Kスカイ／佐川急便／西日本旅客鉄道

卸売・小売業
AOKIホールディングス／アズワン／イズミヤ／岩谷産業／サンコーインダストリー／ジェイアール東海パッセンジャーズ／住友商事マシネックス／スワロフスキー・ジャパン／ダイワボウ情報システム／天満屋／花王カスタマーマーケティング／丸紅／ユナイテッドアローズ／ヨドバシカメラ

金融・保険業
みずほフィナンシャルグループ／三井住友銀行／三菱東京UFJ銀行／池田泉州銀行／関西アーバン銀行／紀陽銀行／但馬銀行／大和証券／野村證券／東京海上日動火災保険／三井住友海上火災保険／アメリカンファミリー生命保険会社／日本生命保険相互会社／兵庫六甲農業協同組合（JA兵庫六甲）

不動産業
三井不動産リアルティ

飲食店・宿泊業
神戸ポートピアホテル／ホテルオークラ神戸／ホテルニューアワジグループ

医療・福祉
医療法人社団顕鐘会 神戸百年記念病院／医療法人社団明石医療センター／医療法人尚和会 宝塚第一病院／社会医療法人愛仁会／社会福祉法人すいせい

教育・学習支援業
大阪府中学校教員／ABC Cooking Studio／GABA

サービス業
アコーディア・ゴルフ／アサツー ディ・ケイ／インテリジェンス／京都監査法人／セコム／クラウディアコスチュームサービス／高見／ニチイ学館／日本中央競馬会／日本旅行／郵船トラベル／ユー・エス・ジェイ

公務
大阪府／高知県／伊丹市／加古川市／門真市／神戸市／神戸市教育委員会

2013年度　キャリアサポートプログラム（予定）

【３年生対象】

2013年

4/19(金) インターンシップガイダンス①
4/26(金) 就職ガイダンス①
5/10(金) 履歴書の書き方セミナー
5/17(金) セミナー：社会人の考え方
5/24(金) セミナー：女性とキャリア
5/31(金) 仕事研究セミナー：総合職と一般職
6/ 7(金) 模擬試験対策セミナー
6/14(金) インターンシップガイダンス②
6/21(金) 仕事研究セミナー①人と接する仕事
6/28(金) 仕事研究セミナー②人を支える仕事
6/29(土) 第１回 SPI 模擬試験
7/ 5(金) 自己分析講座：セミナー編
7/12(金) 自己分析講座：実践編①
7/19(金) 自己分析講座：実践編②
7/26(金) 就職ガイダンス②
7/30(火) インターンシップマナー講座
8/ 6(火)～8(木) 就職文章力アップ講座　＊有料
8/28(水)～30(金) 自己分析・コミュニケーションセミナー
9/17(火)～20(金) SPI 集中対策講座　＊有料
9/27(金) 就職ガイダンス③
10/ 4(金) 職種研究講座
10/18(金) 業界研究講座
10/19(土) 第２回 SPI 模擬試験　＊有料
11/ 1(金) 企業研究講座
11/ 8(金) 中小企業研究講座
11/15(金) 中小企業の探し方講座
11/29(金) 就職ガイダンス④
同　特別セミナー：採用担当からのアドバイス
11/30(土) SPI 数理対策講座　＊有料
12/ 6(金) エントリーシート対策講座①
12/ 7(土) 第３回 SPI 模擬試験　＊有料
12/13(金) グループディスカッション対策講座
12/21(土) エントリーシート実践対策講座　＊有料

2014年

1/10(金) エントリーシート対策講座②
1/20(月)～24(金) 模擬面接対策講座　＊有料
1/24(金) 就職ガイダンス⑤

上記の他に11月から１月にかけて業界研究セミナーを実施（月・火・木の授業後）

２月　学内企業セミナー、学内合同企業セミナーを開催（２月前半、２月中旬）

その他以下を実施予定

企業研究ワークショップ（夏期休暇中）
KC キャリア塾（後期）
４年生による就職活動体験報告会（６月、10月～11月）
４年生キャリアサポーターによるミニセミナー（12月～１月）

【４年生対象】

個別面談（40分間予約制）、相談は随時
面接力向上セミナー（模擬面接　予約制）
グループディスカッショントレーニング（５月１日、２日）
エントリーシート対策セミナー（５月14日、21日）
学内企業説明会（６月８日、29日）

【２年生対象】

7/ 5(金) 進路ガイダンス①
1/10(金) 進路ガイダンス②

【１年生対象】

6/ 7(金) キャリアガイダンス①
12/ 6(金) キャリアガイダンス②

【学年不問】

10/12(土) 学内 OG 訪問会①
11/16(土) 学内 OG 訪問会②
11月頃　留学と就職についての説明会

・秘書技能検定講座２級・準１級　春期・秋期２回実施
・TOEIC 対策講座　春期・夏期集中講座
・公務員受験対策講座　春期・夏期集中講座

2012年度　大学図書館報告

1．統計

• 蔵書数

	2012年度受入	2012年度末現在
和書	3,601点	248,109点
洋書	1,459点	168,044点
合計	5,060点	416,153点
ＡＶ資料	6点	3,856点

• 2012年度貸出状況

学　生	教職員	外来者
21,155冊	3,084冊	1,612冊

• 2012年度相互利用

	文献複写	図書貸借	閲覧	照会
依頼	925件	48件	27件	12件
受付	615件	64件	9件	16件

2．受入図書

• 教育資料費による購入図書
『女学世界』ほか　計５タイトル

• 寄贈図書
Selected Pictures from the Galleries and Private Collections of Great Britain（全４巻）ほか
計140冊

• 寄贈視聴覚資料　計１点

3．その他

• クラス別ガイダンス　44回実施

（大学図書館課長）

＜受入れ留学生報告＞

感受・感動・感謝

広東外語外貿大学交換留学生

日本へ来て、知らないうちに１年がたった。この１年間、日本へ来てよかった、神戸女学院大学で留学することができてよかった、という思いは一刻も私の心から離れたことがない。自分の目で見た日本、自分の身で体験した日本の美しさはもう心に刻んでいて、一生の思い出になった。

この輝いている思い出を彩る一つの絵筆は親切である。日本へ来る前に国際交流センター（IPC）の職員の方からの「大学に到着されてからの予定が順調に進んでいますので、ご安心ください」というメール、日本へ来る日に空港まで迎えにきてくれた留学生バディたちのきめ細やかなご案内、IPC と寮の職員の方が寮の前に並んで挨拶してくれたそのシーン、学長の優しい笑顔、担当先生の認めてくれた言葉、このすべてが当時の私をどれほど安心させたかは、言葉だけでは表現しにくい。この感謝の気持ちは「ありがとうございます」という言葉を何万回繰り返しても完全に言い表すことができない。

思い出の中でもう一つのキーワードは成長である。この成長は外見から心まで、魂までの昇華である。全然料理ができなかった私から、台所が好きになった私へ。学問の世界でうろうろしていて、暗闇の中で迷っていた私から、行く先を見つけて前向きに走っていく私へ。一人だったら心細い私から、静かに、安らかに自分自身の魂とのコミュニケーションを楽しめるようになった私へ。この１年間の成長は、ここへ来る前の５年間での成長よりも大きいといっても全然過言ではないと思う。

この思い出をつづるものはまだいっぱいある。日本の特徴ある四季の移り変わり、人にできるだけ迷惑をかけないような日本人的な思いやり、動と静の中であくまで美を追求しているこのような美しい日本を感受できたことを、私は心から感謝する。

＜留学報告＞
ミリアム大学

ミリアム大学での留学を通して

文学部 総合文化学科 4年生

私は大学3年生の後期をフィリピンのミリアム大学で過ごしました。ミリアム大学の周りにはフィリピンの有名大学が2校もあります。私はそのような学生の街で生活していました。

フィリピンの大学は、1つの科目あたり週に3時間あり、週に2回に分けて行われる授業と、1日にまとめて行われる授業があります。私は週に3日授業がありました。大学では授業が全然ない週があったり、1日に10時間近くまとめて授業が行われたり、全部現地語のタガログ語で授業が行われたりとフィリピンらしさを感じながら毎日過ごしていました。

大学外では、他大学の学生とフィリピンを旅行したり、孤児院や海外青年協力隊の活動を見に行ったり、日系企業を中心に企業訪問に行ったりしていました。そのなかでも海外青年協力隊の活動にお邪魔させていただいた際に、農村部の子どもへの奨学金の選考に関われたことは貴重な体験でした。

フィリピンには、様々なバッググラウンドを持つ人たちがいて、その中には日本人も多く、結果的に英語だけの環境に身をおけませんでした。しかしこの留学を通して、自分の当たり前や普通が一般的ではないということ、自分がどう行動を起こすかで一寸先も変えられるということがわかりました。この気づきは今後、人生の岐路に立った際の助けてくれるものになると思います。

最後になりましたが、私の留学をサポートしてくださった皆様に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

世界遺産バナウェの棚田にて

＜中期英語留学報告＞
チャタム大学

チャタムが私に気づかせてくれたもの

文学部 総合文化学科 3年生

私は2012年8月21日から2013年3月8日までの約7ヶ月間、アメリカのピッツバーグにある、チャタム大学に語学留学をしていました。

アメリカに到着した当初は、言語の壁があり、文化、食生活の違いに慣れるのに、精一杯でした。向こうでは大学の中にある寮で生活し、私のルームメートは3名がアメリカ人で、比較的留学生の多い寮でした。私は自分自身のことを人見知りではないと思っていたのですが、いざルームメートと英語で会話をしようとすると何を喋っていいのか、わからず思わず固まってしまい驚きました。言語が違うだけでこんなにも物事について理解しあえることが難しいとは思いもしませんでした。しかし、自分から話しかけることを心がけ徐々に相手の言っていることがわかるようになり嬉しくなりました。そして、授業中は他の国の学生とディスカッションをしたり、プレゼンテーションをしたり大変なことも多かったのですが、留学を終えて改めて考えてみると、何事にも「自信を持つこと」と「積極性」が重要と強く感じました。まだまだ正しい英語を話せませんが、伝えたいという強い気持ちがあれば伝わることがわかりました。

最後に留学という貴重な経験をさせてもらった両親、一緒に行った5人の友人、国際交流センターのスタッフの方々、そしてこの留学に関わったすべての方にこの場を借りて改めてお礼を言いたいです。本当に有難うございました。

ルームメートとハロウィンパーティーの時

＜中期海外研修報告＞

クイーンズランド大学

7ヶ月間のオーストラリア生活

文学部 英文学科 3年生

私は昨年8月25日から約7ヶ月間、オーストラリアのクイーンズランド大学での中期海外研修に参加させていただきました。

初めの6ヶ月間は大学付属の語学学校、ICTEで授業を受けました。クラスは毎月行われるテストの成績によって分けられ、毎月色んな国から来た人たちと仲良くなることができました。また英語の勉強だけでなく、彼らと授業中意見交換をし、互いの文化や習慣の違いも学べました。

放課後は友達と買い物やバーベキューをしたり、家に帰ってホストファミリーと話をしたりなど、積極的に自分から話しかけました。またICTEで培った英語力を発揮して、飛行機やホテルの予約をし、休日友達とケアンズまで観光へ行ったことも貴重な思い出です。

最も貴重な体験ができたのは最後の1ヶ月間の博物館でのインターンシップです。初日は全然仕事をいただけず、悔しい気持ちでいっぱいでした。しかし翌日から私は上司たちに仕事がないか積極的にたずね、上司からレポートの書き方やエクセルの使い方など色々教わりました。

この7ヶ月間を振り返ると、色んな国の友達やオーストラリア人のホストファミリーや上司と関わることに本当に一生懸命だった気がします。自分の気持ちを伝えると、相手は必ず自分を見てくれる。意思を伝えることは国境を越えて大切だと思いました。

最後に、研修に関わってくださった職員の方々、そして私を応援してくれた両親に感謝しています。ありがとうございました。

クラスメートと

カリフォルニア大学アーバイン校

アメリカでの7か月間

人間科学部 心理・行動科学科 3年生

私は、2012年9月6日から2013年3月22日までの約7ヶ月間、カリフォルニア大学アーバイン校で英語を学びました。初めの1ヶ月間はホームステイをし、残りの半年間は他国からの留学生とルームシェアをしました。アーバインにはアジア人も多くおり、町全体が整備されて治安も良いという、住むには最適と言える環境でした。快晴の空と広い大地は、毎日のびのびとした気持ちにさせてくれました。

日本とは比べものにならない程の土地の広大さは驚きでした。キャンパス内でさえも、敷地が広すぎるために自転車を利用する学生がいました。

色々な国からきた友達がたくさんできたのも良い思い出です。また、ホームステイや、ネイティブそのものといえる英語力の韓国からきたルームメートのおかげで、部屋にいるだけでも英語の勉強になりました。

週末には友達と計画して遊びに出かけ、長期休暇の間はカナダやニューヨークを訪れました。旅行の間は毎日移動しながらユースホステルを利用したので、世界各国から来たバックパッカーと知り合うことができました。

日本では何となくの言葉や雰囲気で理解してもらえることも、アメリカでは全く通用せず、意思表示をして初めて理解してもらえます。やっと英語や文化にスムーズに対応できると思う頃にはもう帰国でしたが、充実した日々を過ごし、自分の視野を広げる貴重な経験ができました。このような環境を与えてくれた両親や先生方に心から感謝しています。

友だちの家でBBQをしたときの様子

＜語学研修報告＞

ヨーク大学

至福の時間

文学部 英文学科 2年生

私は春休みの1ヶ月間イギリスにあるヨーク大学での語学研修に参加させていただきました。ヨークという町は治安が良くとても穏やかで歴史的建物が多く並ぶとても美しい町でした。寒くて雪が降ることもありました。ホストファミリーはモロッコ人とイギリス人のご夫婦と7歳・6歳の子どもがいる明るくにぎやかなファミリーでした。幸運だったのはホストマザーが英語の先生だということで丁寧な発音や文法のアドバイスが勉強になりました。日常生活で驚いたことはよく歩くことです。大学まで往復1時間を毎日歩いて通いました。健康的な生活習慣のおかげで美肌になりました。大学の先生方はとても親切で授業ではたくさんのプロジェクトを組んでくださり、中でもビデオプロジェクトは有意義なものでした。課外活動では少し離れた港町巡りやサッカー観戦、週末には友達とショッピングやカフェでのおしゃべり、ホストファミリーとのミュージアムやシアターでの鑑賞やヨークの街を満喫することができました。研修に参加したメンバーにもとても恵まれ週末には9名全員でロンドンのホテルに泊まり市内を散策できました。もちろんハリー・ポッターの$9\frac{3}{4}$番線も見ることができました。

この研修で多様な人たちとの出会いがあり視野を大きく広げ自分を磨けたことはかけがえのない財産となっています。神戸女学院、ヨーク大学、お世話になった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。思い出が心の中で輝いています。ありがとうございました。

ヨーク City Centre にて

梨花女子大学

心に深く根付いている日々

文学部 総合文化学科 3年生

2013年の2月、韓国梨花女子大学での3週間の短期語学研修に参加いたしました。今回が第一回目ということで、貴重な研修に参加させていただきましたことを光栄に思います。主な研修内容は、①授業②文化授業＆日韓交流授業③ドウミ（留学生バディ）との交流の3点です。では、これから、私の人生観に大きく影響を与えることとなった日々についてお話をします。韓国での3週間は、日本での何年分とも思えるほどの濃い日々でした。目に映るものや耳に聞こえてくるものの全てが新鮮で、自分が知っていることなどほんの一握りでしかなく、語学力はもちろん、自分の知識の未熟さを痛感せずにはいられませんでした。そのような日々を過ごすにつれ、知らないことを知りたいという意識が芽生え始めました。それは韓国のことに限らず、はっきりとはしないがもっと大きなことでした。そのような気持ちにさせてくれたのは、韓国人の性格のおかげかもしれません。あくまで私の考えですが、韓国人は欧米的な性格で、自分に自信を持って生きているように見えました。同時に、その裏で、大変な努力をしていることも知りました。不思議な事に、その努力する姿が魅力的に映りました。学び知ることの喜びを感じられるようになり、自分を磨くための努力は魅力的と思うようになったことは人生の大きな財産となりました。研修を支えてくれた家族や友人など多くの方に、感謝の意を表して終わりとします。

写真は終了証書です。

クイーンズランド大学

オーストラリアでの35日間

文学部 英文学科 3年生

私は2013年2月16日から3月23日までの35日間、オーストラリアのクイーンズランド大学の語学研修に参加しました。ホストファミリーにはホストマザーと猫がいて、出会ったときから気を遣ってくれ、毎日の生活の中で不自由に感じたことは一つもありませんでした。また、部屋は清潔で、食事は野菜が多く全て美味しかったです。学校では18人中12人が外国人のクラスになりました。授業は常に4、5人のグループで意見を交換し合う形でした。英会話が上達するように、できるだけ多く外国人の方と話をするようにしていました。また、ただ座って授業を受けるだけではなく、教室を歩き回り会話することが多かったため、クラスメートと仲が良くなるのが早かったです。日本に興味を持っている方が多く、休み時間に日本語を教えたり、折り紙をしたこともありました。先生も優しく気さくで面白い方々ばかりで授業が退屈だと感じたことはありませんでした。この35日間、英語を毎日使い、様々なことを学びました。家族や友人は応援してくれていて、自分が多くの人に支えられていることに離れてみて気づくことができました。そして、オーストラリアで国境や年齢を超えた友人ができ、今でも連絡を取り合って近況報告しています。この出会いを大切にしていきたいです。最後にこのような機会を設けていただいた関係者の方々に御礼申し上げます。

共に過ごした仲間たち

＜私の研究＞

プラトンに魅せられて

高橋　雅人

私の専門領域は、古代ギリシアにおける倫理学です。「人は自らの内面的なもの・精神的なものをいかにしてより善くすることができるのか」というテーマを、とりわけプラトンの対話篇を基本テキストとして、プラトンに強くかつ深く魅せられている己を自覚しながら、探究しています。

探究の成果として3年前に『プラトン『国家』における正義と自由』（知泉書館）を上梓することができました。その書で私は、プラトンの『国家』を全体主義的と断ずる理解は誤りであり、むしろプラトンは『国家』においてこそ初めて、人間の幸福にとっての自由の重要性を闡明したと論じました。プラトンによれば、人が自由であるためには哲学が必要であり、哲学は自由な営みなのです。この確信を礎に、2012年には『高校倫理からの哲学』のシリーズ（岩波書店）によって、仲間とともに哲学・倫理学教育の重要性を世に訴えることができました。

しかし過ぎたことは過ぎたことです。たとえ研究の成果があがったとしても、すでに終わったことに固執するのは厳に慎むべきでしょう。研究者たるもの、次を目指して絶えず歩まねばなりません。

現在、私はプラトンの『ポリティコス（政治家）』という対話篇を軸にして、政治家が持つべき知とは何か、善い政治とは何か、といった問いを考えています。現代の世界が陥っている知の問題的状況をも見据え、縺れた糸のような政治的問題を解きほぐすことを目指しつつ、かつまたプラトンが達していた境地に少しでも近づくことを願いつつ。

研究の成果を普段の講義を通じて、あるいは著書を通じて、学生の皆さんや一般の人々と共有することができれば、これに勝る喜びはありません。研究の目指すべき地点はそこにあるのですから。

（総合文化学科教授）

バウムと向き合う

鶴田　英也

バウムテストは、A4の用紙に鉛筆で木の絵を描いてもらい、その絵から描き手のパーソナリティを推測する心理検査です。投影法と言って、描く人のより深い層の内面が映し出される方法と言われています。また、心理臨床現場でもっともよく使われている心理検査と言ってもいいでしょう。バウムテストの魅力は何と言っても、描かれたバウムをひと目見て、「苦しそうだな」「空虚な感じだな」「よし、力があるぞ」「だいぶ元気になってきたな」など、直観的に感じ取れるものがあり、なおかつその直観が経験をつむほどに信頼できるものになっていくということかと思います。その魅力にとりつかれた大学院時代以来、バウム研究は私の専門である心理臨床学の中でもライフワークとなりつつあります。

目下の課題はバウムの治療的意義を探ることです。そもそもバウムを描くという行為は、心の中を探っていってそこで触れ合うイメージを木の象形へと受肉させていく営みだと言えます。それはまるで、水を求めて井戸を掘る作業のようであり、内面への旅のようであり、自己との出会いであるとも表現されるものでしょう。そしてこれは、心理療法やカウンセリングで営まれる心の作業そのものでもあります。

一方セラピストの仕事はというと、その作業が全うされるよう、邪魔にならぬようお手伝いするというところにあるように思います。そこで求められるのはまず、ありのままを受け入れる姿勢です。それを身につけるための方策の一つとして、私はできるだけバラエティに富んだ樹木の生態や風土を体験しようと心がけています。屋久島の縄文杉、鞍馬の木の根道、沖縄のガジュマルの木。それら木々たちが、私の前に現れるバウムたちを私の背後からそっと出迎えてくれるのだろうという期待を込めて…。

（心理・行動科学科准教授）

＜課外活動紹介＞

［クラブ］　English Drama Club

部　長

私たち English Drama Club は関西学院大学所属 S.O.L.E（Studio of Living English）との２大学合同ミュージカルサークルです。練習は大体週３日（公演前は週４日）で神戸女学院ならミリアム館、関西学院大学なら新学生会館会議室10で活動しています。主な活動としては春と秋の年２回の公演に向けて、発声練習や柔軟・筋トレなどの基礎練習や公演に向けた稽古、裏方作業をしています。

ミュージカルサークルの名の通り、公演は英語でミュージカルを上演しています。過去の演目作品としては “WICKED”、“Beauty and the Beast”、去年の秋公演では “Guys and Dolls”、今年の春は “High School Musical” を上演しました。

活動内容的に演技中心の稽古だと思われがちですが、稽古以外でもダンス練習や歌練習など全てを含めて体験できる事も私たちの部の魅力の一つです。因みに本番はプロのピアニストさんを招いて生伴奏で歌ったり踊ったりします。

そしてもう一つの魅力が一から舞台を製作できることです。自分たちの手で一から舞台や公演で使う大道具から小道具まで設計して作っていくのでとても遣り甲斐があり達成感を感じます。去年の秋公演では多くの観客の方々から良い評価を頂きました。

ほとんどの部員が初心者から始めた者ですが皆一生懸命稽古に取り組んでいます。部員は劇団四季が好きな者や宝塚歌劇団が好きな者、演劇や舞台美術に興味がある者など色んな人が集まっています。上記に当てはまる方や英語力を伸ばしたい方、何か新しい事を始めたい方はぜひ入部をお待ちしています。

2012年度秋公演 “Guys and Dolls”

［クラブ］ **ゴルフ部**

主　将

ゴルフ部は約50年前に創立され、関西の女子大学の中では最も古い歴史を持つ、伝統あるクラブです。

現在部員は15名で、週に２回神崎川ゴルフセンターで活動しています。練習は主に打球練習ですが、月に一度は京阪ゴルフクラブでラウンド練習も行っています。春と夏には合宿があり、今年の春は和歌山県の朝日ゴルフクラブ、昨年の夏は岡山県の作州武蔵カントリークラブで行いました。愛好バザーや大学祭では、毎年部の活動として模擬店を出しており、新年会、新入生歓迎会、クリスマスコンペ、追い出しコンパなど、練習以外での楽しみもたくさんあります。

部員は大学からゴルフを始めた人がほとんどですが、コーチや先輩に指導を受けながら、少しずつ上達しています。ちなみに私も大学からゴルフを始めたのですが、今では100を切るスコアで回ることができるようになりました。その理由は、すばらしいコーチ陣にあります。現在４名のコーチにご指導いただいており、そのうち３名は坂田塾のコーチで、主に合宿の際に練習を見ていただいています。普段の練習を見てくださっている石角コーチには、この神戸女学院大学ゴルフ部の創立以来、約50年間お世話になっています。

先輩方から受け継いだこの伝統あるゴルフ部を、これからも後輩につなげていきたいと思います。興味のある方は、ぜひ一度見学に来てください。

菊水ゴルフクラブでの集合写真

中高部報告

中高部図書室報告

Ⅰ．2012年度の主なできごと

（１）蔵書点検　2012年７月11日～24日

Ⅱ．ａ 2012年度増加図書冊数（資産化図書）

	購入	寄贈	移管	合計
和漢書	17	0	0	17
洋書	0	0	0	0
合計（冊）	17	0	0	17

ｂ 1972年以降受け入れ図書の蔵書冊数の増減（資産化図書）

2012年度　増加数	17
2012年度　除籍数	△92
蔵　書　数（冊）	10,746

ｃ 消耗図書費の蔵書冊数の増減

2012年度　増加数	2,264
2012年度　除籍数	858
蔵　書　数（冊）	62,988

Ⅲ．2012年度貸し出し冊数

Ｊ１	5,850
Ｊ２	4,580
Ｊ３	2,617
Ｓ１	1,416
Ｓ２	1,048
Ｓ３	530
教職員	399
大学生・大学院生	27
その他	0
合計（冊）	16,467

貸し出し日数　204日　　１日平均 80.7冊

（中高部図書室）

2013年度中学部入試結果報告

募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
135	257	246	153	141

日程：2013年１月19日（土）・21日（月）

（中高部事務室）

2013年度中高部受け入れ留学生

本年も、昨年度に続き、S1とS2に計2名の外国人留学生を受け入れています。

S1の1名は、オーストラリアの姉妹校 Methodist Ladies' College の生徒です。4月から7月まで、中高部生徒の3家庭にお世話になり、S1Bに在籍して勉強しています。茶道部にはいり、その他コーラス、ダンスなどにも興味があるそうです。

S2の1名は、スイスから来た17歳の AFS 生です。4月から来年の2月までS2Cに在籍して通学し、修学旅行にも一緒にいくことになっています。ダンス部に入部しました。

ふたりは所属するクラスと一緒に授業をうけたり、他の学年の音楽選択や家庭科の実習授業に参加したり、また週6時間は、講師の先生の日本語のレッスンをうけています。ふたりともとても熱心に、よくがんばっているそうです。クラスメイトとも仲良くすごしています。

（中高部英語科教諭　留学生係）

オーストラリア　Methodist Ladies' College 生

みなさんこんにちは！15才です。オーストラリアのパースからきました。3ヶ月間だけ日本にいます。私が日本にきたのは、たくさんの人にあったり、日本語を勉強したり、ほかの国で生活をしてみたかったからです。そして、私は日本の文化と歴史に興味があります。もちろん日本語が上手になりたいです。どうぞよろしくおねがいします。

スイス　AFS 生

みなさんこんにちは！スイスからきました。AFS の留学生です。来年の2月まで日本にいます。わたしは日本語が勉強したくてきましたが、日本の伝統文化にも興味があります。わたしの目標は日本語が上手になることです。ホストファミリーや学校のみなさん、手伝ってください。どうぞよろしくおねがいします。

2012年度学校評価について

個人情報保護のため、
42ページ目から43ページ目は削除しています。

中高部 P.T.A. 報告

個人情報保護のため、
44ページ目から45ページ目は削除しています。

Ｊ１デイキャンプ報告

４月１日、２日にＪ１デイキャンプが行われました。

１日目、朝11時半に新Ｊ１と上級生スタッフ一同が講堂で開会式を行い、その後グラウンドに移動、各班に分かれて昼食をとりました。桜に囲まれた芝生の上で新しい仲間との交わりの時をもつこのプログラムは、神戸女学院の群れに加わった喜びを実感できる貴い時間となっています。Ｊ１の緊張も徐々にほぐれてきた頃、オリエンテーリングにプログラムは移ります。校舎を探索しながら各ポイントでゲームをして楽しむ明るい声が、校内に響き渡りました。

２日目、朝８時半に講堂で朝拝をまもった後、グラウンドでキャンプ恒例の「ペパミン」を踊りました。徐々に天候は崩れてきたもののプログラムに大きな変更はなく、続いて校内でのジクソーパズル作成に取り組みました。Ｊ１一人一人が中高生活６年間の抱負をパズルに描き込みました。昼食をはさんでパズルは完成、各クラスで記念の写真撮影をし、キャンプ最後のプログラムのため講堂へ。Ｓ２スタッフによる学校生活をテーマにしたリーダースタンツを楽しみ、メディテーション・キャンドルライトサーヴィスをもちました。それぞれ今の自分を見つめながら、この学び舎に集うことのできる幸いに感謝し、祈りを合わせる時を皆でまもりました。

丁寧に準備を重ねてきた上級生スタッフによるこのキャンプでの業が、新Ｊ１の心をいつまでも豊かに彩るものとなりますよう願っています。

（ディレクター）

春の修養会報告　大阪水上隣保館訪問

～４月20日（土）　交流と昼ごはん大会～

またしても、例年のごとく晴天となり、和やかな一日となった。子羊保育園の子供たち27名、先生方７名、本校からは、本校生73名、引率教員６名の総勢113名の参加となり、大いに盛り上がった。

９時に大阪駅を出発し、10時から礼拝堂で礼拝を守り、その後、この行事の歴史と意義について説明し、当日の諸注意と詳細な打ち合わせを行い、11時に保育園へ子供たちと出会いに行く。保育園の園庭を中心にして活動開始。本校生が持参した、心のこもった手作り弁当を子羊保育園の子供たちに、そして教員が用意した焼肉、キムチ３種は子羊保育園の先生方に食べていただいた。本校生は、２～３人グループに分かれて、皆、精一杯、心を使って子供たちと向き合っていた。保育園へ子供たちを送り、礼拝堂で生徒の司会で閉会礼拝を守った。そして１日の総括を行った後、皆、精一杯動いた心地よい疲れをおぼえつつ、爽やかな気持ちで帰路に着いた。今回も参加希望者が多かったため、昨年に続き、大阪水上隣保館訪問史上３度目の抽選会を行い、多くの応募者から73名にしぼり、少なからぬ生徒、特にＪ１には参加をあきらめてもらう事となり非常に残念であった。本校生の頑張りが嬉しく、教員にとっても、充実した１日であった。今年も現役生が頑張った。参加した君が、この行事の歴史を繋いだんだよ。皆に、有り難う。

（中高部教諭）

春の遠足

爽やかな春の日差しの中、４月19日（金）に春の遠足が行われました。学年ごとに六甲山系の異なるコースを歩きました。

Ｊ１：布引→外国人墓地で墓前礼拝→諏訪山公園
Ｊ２：長峰→六甲山牧場→摩耶ケーブル
Ｊ３：鈴蘭台→再度公園→諏訪山公園
Ｓ１：油コブシ→高山植物園→六甲ケーブル
Ｓ２：諏訪山公園→森林植物園→谷上
Ｓ３：王子公園→摩耶山掬星台→布引ハーブ園

新しいクラスの仲間たちと親睦を深める良い機会となりました。

（保健体育委員会）

47ページ目から49ページ目は削除しています。

春の子ども会報告

今年度も４月29日の昭和の日に「春の子ども会」が開催されました。春の子ども会は近隣の児童擁護施設で暮らす子どもたちと神戸女学院・関西学院の高校生とが一日を過ごす、50年以上の伝統を誇る行事なのですが、今回は５施設の子どもたちを招待しての開催となりました。今年度の主催は神戸女学院高等学部。神戸女学院では、高等学部自治会の役員が中心になって、関西学院の男子学生とともに入念な打ち合わせと準備を重ねてこの日を迎えました。

当日は、朝９時過ぎから送り迎え係の高校生に連れられて各施設から順次子どもたちが到着、10時前には全員が揃い、開会式が始まりました。午前中は中高部１号館にて各種ゲームに興じ、お昼にはよく晴れたグラウンドで、本校食堂の方が作ってくださったお弁当に舌鼓を打ちました。午後からはグラウンドで高校生と子どもたちとが一体となって、しっぽおにや玉入れを楽しみました。そして午後３時から閉会式、午後３時半には子どもたち全員が高校生に付き添われて帰路につきました。

春の子ども会は、子どもたちのみならず、本校の生徒たちにとっても最も楽しみな行事だと言っても過言ではありません。年々「進化」を続けるこの子ども会が、今後もより魅力的な形で続いていくことを願って、「報告」とさせていただきます。

（高等学部自治会顧問）

2013年度　体育祭

今年の体育祭は、予定通りの６月４日(火)に取り行われました。朝から空が晴れ渡る、体育祭日和となりました。

８時30分から礼拝をまもったあと、各組で練習し、工夫した入場行進が行われました。開会式では、開会宣言・開会の辞・優勝カップ返還の後、各組組長による選手宣誓が行われました。

午前中は、綱引き、玉入れ、棒引き、200m 競走などの体育祭では定番の競技に加え、本校独自の登校競争、人生レース、Ｊ１・Ｊ２対象の DEKA パンレース、Ｊ３以上対象の棒上帽子争奪戦など、ユニークな競技も行われ、熱い闘いが繰り広げられました。

午後からは、学年対抗パフォーマンスが行われました。体育祭の中で唯一、学年が力を合わせるプログラムで、どの学年も長い期間をかけて練習してきた成果を発揮していました。

その後、今年新たに加わった応援合戦、続いてむかで競争、600m リレー、騎馬戦が行われました。閉会式では、成績発表と表彰、閉会の辞、閉会宣言が行われ、悲喜こもごも、興奮が冷めやらぬうちに体育祭の一日が終わりました。

今年の体育祭も多くの方々にご協力、お力添えいただき、無事に終えることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

優勝：あ組

学年対抗パフォーマンス優勝：Ｓ３

（体育祭企画実行委員会顧問）

＜課外活動紹介＞

［クラブ］ **Ｊテニス**

―Ｊテニス部魂とは―

現在部員48名のＪテニス部は、キャプテンシーを大事にします。各コートに分かれた時も各リーダーが、練習をマネージメントします。後輩は先輩に習い受け継がれます。しかし、試合になるとコートでは先輩後輩関係なく真剣勝負です。「勝って奢らず。負けて腐らず。」の底抜けの明るいクラブです。「やらされる」より「やる」意識がクラブ活動をより主体的なものとし、皆を成長させると信じています。対外試合では、団体戦だけでなく個人戦も全員が神戸女学院代表です。応援よろしくお願いします！

（顧問）

［クラブ］ **Ｊ E.S.S.**

ＪESSはＪ１歓迎会（５月）、文化祭（９月）、キャンパス見学会（11月）、Ｊ３送別会（３月）の年４回の英語ミュージカル公演を目標に活動しています。脚本編集、演出、舞台照明、大道具や衣装の作成なども生徒中心に行っています。大人数なので、配役決めや衣装選びは大変ですが、全員が一丸となって作品を作り上げるところに醍醐味があります。せりふのたどたどしかったＪ１も回を重ねるうち、堂々と演技するようになります。是非一度公演をご高覧ください。

（顧問）

［クラブ］ **Ｓフットサル部**

部　長

Ｓフットサル部はＳ１とＳ２あわせて13人で、活動しています。

活動内容はすべて部員たちで決めて行うので、自由で楽しく、日々試行錯誤を繰り返しながら、練習に励んでいます。

年に数回行われる他校との練習試合や、大人も交えたフットサル大会では、学ぶことが多く、部全体のレベルアップを図る良い機会になっています。春と夏には合宿も行っています。

創部５年の新しいクラブで、少人数ですが、部員同士とても仲が良く、充実したクラブ活動を行っています。

［クラブ］ **Ｓ手芸部**

部　長

こんにちは。Ｓ手芸部です。Ｓ手芸部は、毎週火曜日と金曜日に活動しています。バザーで売る品物や、文化祭の展示作品などを作っています。具体的には、縫い物、編み物、刺繍などをしています！あまり裁縫が得意でなくても、作品を作っているうちに上手くなるのでとても楽しいです！新入部員も入ったので今は８人でわいわいと活動しています。先日行われたバザーでは、キャラメルポーチやトートバッグ、シュシュなどを作って販売しました。見に来ていただいた皆様、ありがとうございました。

〈学 院 日 誌〉

4月3日(水)	臨時評議員会
4月4日(木)	大学・大学院入学式
4月5日(金)	中高部教員会議
4月8日(月)	中学部入学式
4月9日(火)	高等学部入学式 中学部・高等学部始業式
4月17日(水)	中高部教員会議
4月19日(金)	教授会
4月24日(水)	理事会
5月1日(水)	中高部教員会議
5月15日(水)	中高部教員会議
5月17日(金)	教授会
5月22日(水)	創立者記念日 創立者記念日墓前礼拝 中高部教員会議
5月25日(土)	愛校バザー
5月29日(水)	理事会 評議員会 理事会及び評議員会メンバーとの懇談会
6月4日(火)	中高部体育祭
6月12日(水)	中高部教員会議
6月14日(金)	名誉博士号授与式
6月21日(金)	教授会
6月26日(水)	理事会 神戸女学院教育振興会役員会 中高部教員会議
6月29日(土)～30日(日)	デフォレスト先生召天40周年記念行事（仙台）
7月5日(金)	デフォレスト先生記念礼拝（大学）
7月9日(火)	中高部教員会議
7月19日(金)	教授会
7月24日(水)	理事会 臨時評議員会 臨時理事会
7月26日(金)	学院リトリート

目 次

キャンパス移転80周年に寄せて……1
KCC だより ……3
2013年度愛校バザー……5
新任のことば……5
人事・学内人事・慶弔・栄誉……14
神戸女学院教育振興会寄付金・その他の寄付・現物寄付…16
インターネットによる寄付金の取扱開始……16
神戸女学院2012年度決算報告及び2013年度事業計画…17
新刊・CD 紹介 ……22
史料室の窓・キャンパス探訪（２）……24
オフィスの宝物……25
大学報告
　共通英語教育研究センター開設……26
　図書館新館にラーニング・コモンズ開設…27
　大学春季宗教強調日礼拝（創立者記念日礼拝）…28
　家庭会大学部会総会報告……29
　2013年度 大学・大学院入学試験結果概要…31
　2013年度 在籍学生数……31
　2012年度 就職決定状況……32
　2013年度 キャリア支援プログラム（予定）…33
　2012年度 大学図書館報告……34
　受入れ留学生報告……34
　留学報告……35
　中期英語留学報告……35
　中期海外研修報告……36
　語学研修報告……37
　私の研究……38
　課外活動紹介……39
中高部報告
　中高部図書室報告……40
　2013年度中学部入試結果報告……40
　2013年度中高部受け入れ留学生……41
　2012年度学校評価について……42
　中高部 P.T.A.報告 ……44
　Ｊ１デイキャンプ報告 ……46
　春の修養会報告　大阪水上隣保館訪問……46
　Ｊ１春の遠足 ……47
　Ｊ２春の遠足 ……47
　Ｊ３春の遠足 ……48
　Ｓ１春の遠足 ……48
　Ｓ２春の遠足 ……49
　Ｓ３春の遠足 ……49
　春の子ども会報告……50
　2013年度 体育祭 ……50
　課外活動紹介……51
学院日誌……52